



聖徒の道

7 1974

心の糧



私は雨の少ない地方で生まれ育った。そこはまだまだかつて、作物の成長期に十分な雨に恵まれたことはなかったのではないかと記憶している。河川の水量が少ないために、掘割はあちこちで底を見せ、数万エーカーにも及ぶ土地が、作物に十分な水分を与えることができず、渴いていた。

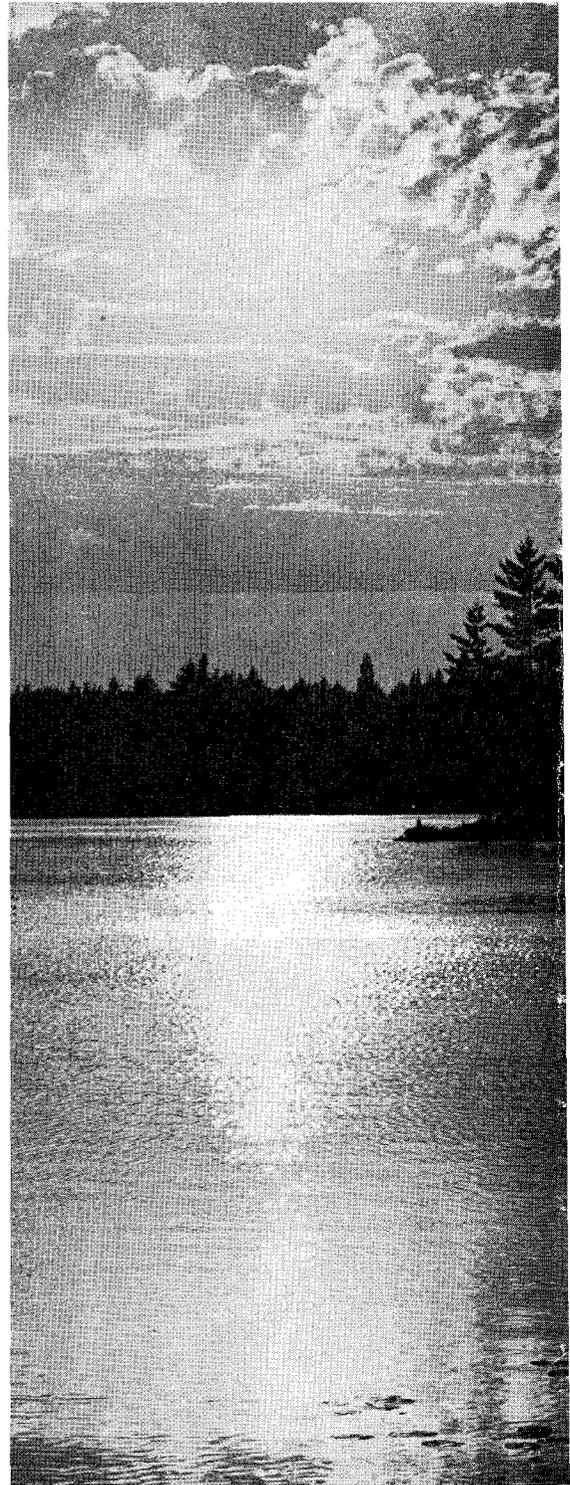
私たちは雨乞いの祈りをするようになった。そう、実際いつものように祈ったものである。

貯水池が必要だった。秋、冬、そして春の降雨をせき止め、後々の必要に供するために貯水する高いダムが。

このようなことを考えながら、ふと気づいたことがある。後々のために貯えておくのは何も水だけに限ったことではない。ある人は家庭福祉計画の一貫として食糧を貯えていることだろうし、あるいはヨセフのように、エジプトの地に穀倉を建てて7年分の食糧を貯え、7年にわたるかんばつと飢きんに対処した人もいる。

そればかりではない。将来の必要に備えるには知識の貯えも必要であろう。生活に不安をもたらす洪水という恐れに打ち勝つには、勇気を貯えるダムがある。また体力という貯えは、絶え間ない汚染や病毒から私たちを守ってくれる。ほかに善意のダム、スタミナのダム、信仰のダムがある。そう、信仰のダムがあれば、たとえ世間の煩わしいことが私たちを圧迫しても、独自の立場を堅持することができるのである。私たちを取り囲む世界は次第に墮落への道をたどっている。その誘惑が私たちの活動力に接近し、霊的な力を吸い取り、俗世間の水準にまで私たちを引き落とそうとするとき、そのときこそ若者に、希望と不安の相半ばする十代、それにいろいろな問題の交錯するそれ以後の生活を雄々しく歩ませるため、私たちには信仰という水を満々とたたえたダムが必要なのである。信仰は無気力なとき、あるいは困難なとき、さらには恐れおののくときに力を与え、失意や幻滅、欠乏、混乱、挫折を味わっている人、はたまた永年の間逆境にあえぐ人にそれを乗り切る勇気を与えてくれるのである。

このダムを造るのはだれであろうか。神がその子供たちひとりびとりに父親と母親をお与え下さったのは、そのためではないだろうか。



大 管 長

スペンサー・W・キンボール

(1969年10月 第139回半期総大会における説教)

聖徒の道

1974 7月号

も く じ

末日聖徒イエス・キリスト教会

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプレー
リグランド・リチャーズ
ヒュー・B・ブラウン
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー

諮問委員会

J・トーマス・ファイアズ
(内務伝達部長)
ジョン・E・カー
(配送翻訳部長)
ドイル・L・グリーン
(教会誌編集主幹)
ダニエル・H・ラドロウ
(教会教課企画調整主任)

統一誌編集主幹

ラリー・ヒラー

日本語コーディネーター

八木沼 修一

ローカル編集

高木 まりゑ

心の糧	スペンサー・W・キンボール
並の人にあらざる	
スペンサー・W・キンボール	290
ボイド・K・パッカー	
カミラ・アイリング・キンボール姉妹	296
旧約聖書の成立	296
キース・H・メサービー	
近代の啓示	305
ロバート・J・マッシューズ	
—旧約聖書への窓—	
—ジョセフ・スミスと旧約の人物—	
質疑応答	308
すべてはよし	309
マーガレット・C・リチャーズ	
キャロル・C・マドセン	
ほんとうのおともだち	310
かいたくしゃ	312
おもちゃばこ	313
隊からはなれて	314
ルーシー・パー	
「逸話集、近代の使徒の生涯より」	317
レオン・R・ハートショーン	
—マリナー・W・メリルー—	
—フランクリン・デューイ・リチャーズ—	
目を覚ましていなさい	320
ハロルド・B・リー	
聖徒への勧告	324
ハロルド・B・リー	
勇気を出そうではないか	327
ゴードン・B・ヒンクレー	
啓示	330
スペンサー・W・キンボール	
質疑応答(つづき)	334
ローカルニュース	335

聖徒の道 7月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-8-10
配 送 東京ディストリビューション・セ
ンター
東京都港区南麻布5-10-25
定 価 年間予約 1,300円 1部 130円
海外予約 1,800円



並の人に
あらざる
スペンサー
W
キンボール

ボイド・K・パッカー長老

キンボール大管長はかつてこのように語った。「優しく幼
な子を見おろしながら、その子が大管長に、あるいは国の指
導者になった姿を心に描かない母親がいるだろうか。母親は
腕の中に抱かれている子供が、政治家に、あるいはリーダー
に、予言者になる姿を心に浮かべるものである。そしてどの
夢かが現実のものとなるのである。母親はシェークスピアを
描き、またある母親はミケランジェロを思う。アブラハム・
リンカーンを思う母親もいる。さらには、ジョセフ・スミス
を心に描く母親もいる。

神学者がよるめきつまずいているとき、人々が口々に偽り
を語り心の定まらないとき、人々が主の言葉を求めてこなた
かなたへはせまわるのに、これを得ない（アモス8：12参
照）とき、また過ちが拭い去られ霊的な暗黒が晴らされ、そ
して天が開かれることが必要なときに、ひとりの幼な子が生
まれる。」（スペンサー・W・キンボール、*Conference
Report*「大会報告」、1960年4月4日）

こうしてスペンサー・ウーリー・キンボールは生まれた。
人の目から見て取るに足らない幼少の頃より、主は見守って
こられた。実業家、民衆の指導者、弁舌家、詩人、音楽家、
教師等、すべてが彼にとってふさわしい称号となるであろう
が、主は彼をそれらのためには備えられなかった。主は、父、
家族の長、使徒、予言者、主の教会の大管長になるよう彼を
備えられたのであった。

しかしその人生の道には幾多の試みがあり、勇気と忍耐の
試験があった。それは合格する者のほとんどいない試験であ
った。少年のとき、彼は顔面まひにかかり、神権の癒しの儀
式によってかろうじて回復した。また、おぼれてしまい、す
んでのところで息を吹き返したこともある。

11歳のときのことである。彼の母は12番目の子供を待ち設
けていたが、健康がすぐれなかった。そこでもっとよい診察
が受けられるように、彼の父に連れられてソルトレーク・シ
ティーに行った。

ある日、キンボール家の子供たちを家に帰してほしいとい
う伝言が家から学校に届いた。スペンサーは教室を飛び出し、
廊下で兄や妹たちと会った。それから皆は家に向かって一目
散に走った。そこにはムーディー監督が待ち受けていた。監
督は皆を腕の中に抱きかかえると、愛情の込められた、しかし
悲しげな声で言った。「君たちのお母さんは亡くなったん
だよ。」（後に、優しい義理の母を迎えた。）

また、13歳のとき、彼は腸チフスにかかり、数週間死の瀬
戸際をさまよった。次いで天然痘にかかった。ほかにも数々
の試しを受け、苦しみを受けた。ある苦しみは少数の人に知
られているが、彼以外だれも知らない苦しみを被った。

十二使徒に召された後、彼は幾度か心臓発作に苦しめられ
た。休養が必要なことを医者は告げた。彼は愛するインディ
アンたちと一緒にいたかった。そこでゴールデン・R・ブキ
ャナン兄弟は、アリゾナ州の松の森に囲まれた高所にある、

ボラッカ兄弟姉妹のキャンプに彼を連れて行った。彼は心臓の具合が良くなり、強さを取り戻すまで、数週間そこに滞在した。

ところがある朝、彼がキャンプからいなくなっていた。朝食の時間にも戻って来ない。そのため、ボラッカ兄弟と他のインディアンの友人たちは彼を捜し始め、キャンプから数キロ離れた所で、聖書を手にして大きな松の木の下に座っている彼を見つけた。そのとき彼は、ヨハネによる福音書の最後の章を開いていた。そして、彼らの心配そうな様子に伝えて言った。「私は6年前の今日、主イエス・キリストの使徒に召されました。そのときは、主の証人として、その日を主と共に過ごしたいと思ったのですよ。」

心臓病は再発した。しかし長い間彼の働きを妨げることはなかった。

1957年には、のどの病気にみまわれ、診断の結果、のどと声帯の癌であった。恐らく、これは彼にとってゲッセマネであったに違いない。

彼は手術のために合衆国東部へ出かけた。そこには、ハロルド・B・リー長老も同行した。手術の準備の間、最悪の事態のことを考えながら苦しみ悩み、声を失ったらどのように生きてよいかかわからないと主に告げた。というのは、説くこと、語ることが彼の務めだったからである。

リー長老は外科医に言った。「あなたが手術をしようとしているこの人は、普通の人ではないのです」と。祝福と祈りの結果、医者が語ったほど大きな手術にならずにすんだ。

回復と調整は長い期間を要した。声はほとんど失われてしまったが、新しい声それが代わった。静かで説得力のある柔らかな声、後天的に加えられた声、人の心を動かす声、末日聖徒に愛されている声となったのであった。

彼は時を見ては働いた。面接では質問の回答をタイプライターで打ち、また事務所の時を過ごした。

それから試みが訪れた。はたして彼は話せたのだろうか。説教できたのだろうか。

彼は手術後初めての説教を行なうために故郷に戻った。アリゾナから愛する同僚デルバート・L・ステイプレー長老に伴われて、マウントグラハム・ステーキ部の大会に出席し、演壇に立ったのである。

「教会員の皆さんと過ごすために、この地に戻って来ました。私はかつてステーキ部長としてこの地を管理しました。」恐らく彼は、失敗しても、自分をとても愛してくれている人々のいるところだから、理解してもらえるだろうと考えたに違いない。

そこにはほとぼり出る愛があった。こうしてキンボール長老は復帰したのである。

アリゾナの大会に向かっていったあるとき、彼の自動車はカイバブ森の凍りついた道でスリップし、大きな漂石におおわれた山復をころがって下の道に落ちた。幸運にも下に道があ

ったために大事に至らずにすんだが、キンボール姉妹は重傷を負い、ユタ州カナブの病院にかつぎ込まれた。一方キンボール長老は、姉妹の勧めによって、彼女の病院の手配を見届けると、バスで大会に向かった。

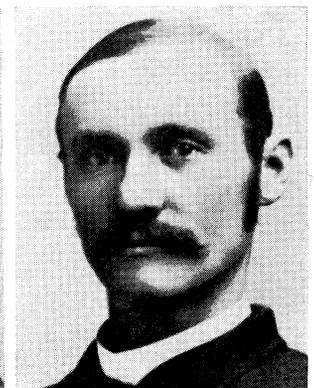
のどの病気が再発したとき、彼はそのほとんどの期間事務所です仕事をしながら治療を続けた。

また、顔の筋肉まひにかかり、顔の筋肉が動かずに苦痛を感じたこともあった。

2年前医師たちは、昔受けた損傷を治すために心臓の手術をする必要があることを告げた。彼の友人たちは、彼がそのことでどれほど思い悩んだか今でも記憶している。その結果はどうだったであろうか。医師たちは首を横に振っていた。というのは、77歳の老人がこれほど大規模な心臓切開手術を受けたことは、これまでの統計上、一度もなかったからである。

しかしまたしても、この人は並の人ではなかった。手術を受けることにしたのである。そこで外科医は、ハロルド・B・リー大管長からの祝福を求めた。「かつて手がけた中で、最も危険でむずかしい手術です」と、その外科医は語っている。

そのほかにも多くの経験をした。しかし、以上述べたものは、彼が克服した障害とチャレンジの典型である。これらすべての中であって、彼は驚くほどの忍耐を示し、愚痴ひとつこぼさなかった。彼は気力を失うような事柄を経験し続けな



1. 父のひざに抱かれたスペンサー。この家族の写真は地元の写真家が写したものだ。
2. キンボール大管長の母、オリブ・ウーリー・キンボール。
3. キンボール大管長の父、アンドリュウ・キンボール。

がらも、与えられた務めを忘れるようなことはなかった。

幸いにも、最近医師から次のように告げられた。「あなたの身体の状態をすべて完全に調べましたが、どの組織も機能も最良の状態にあるという結果が得られました。これまでに教会を管理する召しを受けた人の中で、聖任前にこれほど十分な健康診断と準備を行なった人はいません。……あなたは健康ですし、心臓もここ数年間で最も良い状態です。……また私たちの判断する限り、健康にはさして心配せずにこの新しい務めのことを考えてよいと思います。」

キンボール大管長自身、熟練した医師と言える。といっても、医学上の医師ではなく、霊的福利を図る医師である。多くの道徳上の癌が切り取られ、性格の傷が癒され、また様々な霊的な病いが、彼の努力によって治療されてきた。さらに今にも霊的健忘症に陥ろうとしていた多くの人々が、彼によって回復してきたのである。彼は文字通り長年の準備を整えて、一冊の書、「赦しの奇跡」を著わした。そして多くの人々が、彼の記した助言によって守られ、生活を整えるよう励まされ、またその奇跡を自ら経験してきたのである。



またそのほかにも、これまで述べてきたものよりはるかに大きな試みがあった。これはとても聖なるものであるため、公にはされていない。しかし、十二使徒の兄弟たちには話してくれた。

そのようなことが2度あった。しかも2度とも、ステーク部四半期大会のために訪問していた折であった。またいずれも、大会に伴う問題とは関係のないものであった。正に悪魔の力が彼に対して解き放たれたのである。彼はその数時間の間絶え続けた。詳しくはここに記さないが、それは、彼の祖父ヒーバー・C・キンボールが主の使徒として、英国で伝道の門戸を開いたときに経験した事柄に似ている。また、予言者ジョセフが、初めて聖なる森でひざまずいたときに経験し

た事柄と同じような出来事である。

これらの試みを通して、彼は謙遜に主の力に頼る気持を強めてきた。スペンサー・W・キンボール長老と共に祈ることは、何とすばらしい経験であろうか。

しかし、いかなる苦しみも、彼からユーモアのセンスを奪いはしなかった。彼は見ての通りとても陽気な人である。彼と一緒に旅をすると、いつも多くの笑いが伴う。周囲の人々を幸せにする人である。また、彼の豊かなユーモアはいつも上品である。

彼は幸せと確固たるものを持っており、周囲の人々にいつも安らぎを与える。彼の握手は優しく、暖かく心が込もっている。また、ほかの人々に忘れられ、無視されがちの人々にさえ、手を伸べるようにいつも気を配っている。初めて彼と会う人々でも、すぐに彼の丁重さに胸を打たれるのである。

スペンサー・W・キンボール長老のきわめて目立った性格は、むずかしい仕事を好むことである。福祉プログラムを紹介するにあたって、大管長会は次のように宣べた。「勤労を教会員の生活における主要な原則として再び見直し、尊ぶ必要がある。」キンボール大管長は働くことを愛している。

勤労の祝福は、スペンサー・W・キンボール大管長がまだ若い時代から、彼の大きな特質となっていた。

キンボール大管長の家族や友人、知人は、彼が決してじっとしてられない人であることを知っている。彼はいつも休みなく物事を処理してきた。朝は早く起き、長い時間働く。そしてそのあい間に少し休むのである。日に1度か2度、床の上で体を伸ばし、10分間ほど眠る。もし大会に臨んでいる場合であれば、恐らく監督室か高等評議員会室でそうするであろう。こうして新たな活力を取り戻し、すべての細々とした仕事を続けるのである。

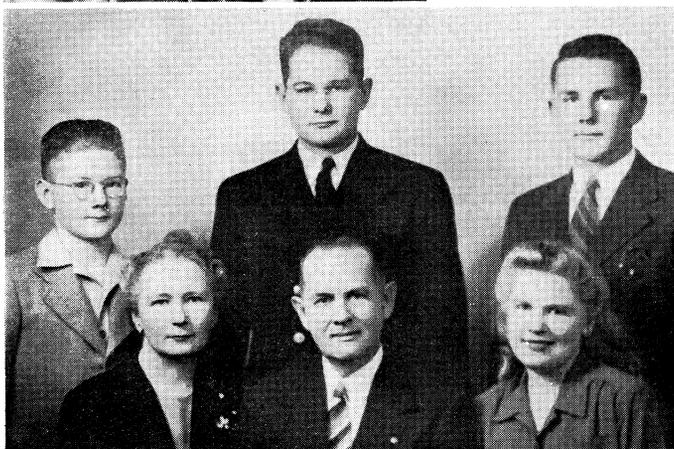
私はかつて、ユタとアイダホの州境近くのハイウェイで、キンボール夫妻を追い越したことがある。大会へ行く途中だった。キンボール姉妹が運転し、キンボール兄弟は後部座席にいてひざのいつもの場所に小型のタイプライターをセットし、両側に紙を置いて仕事をしていた。彼と一緒に旅をした人々は知っているように、この車中の事務所は、彼が仕事に献身していることを特徴づけるものである。

彼はどこからその力を得ているのだろうか。どんな人にも多くの源が考えられる。しかし、彼自身にとってのひとつの源は、一言でいえば、カミラであると言える。

カミラ・アイリングは、アリゾナ州サッチャーの学校で教えることになった。スペンサーは、メキシコの入植地から来たこの愛らしい少女にひかれた。彼女は家族と共に、パンチョ・ビラの軍に追われ、メキシコから逃げ出してきたのである。その後、両親は彼女に教育を受けるように勧め、限られた資力の中で彼女はブリガム・ヤング・アカデミーに通っていた。彼女は、すっきりした見なりで、がっちりした体格の青年にひかれた。その青年は、敏活なユーモアのセンスを具



4. 新婚当時のスベンサーとカミラ。

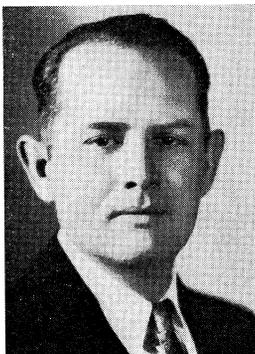


5

5. 教会幹部に召された頃のキンボール家族。前列左からキンボール姉妹、キンボール長老、令嬢オリブ・ベス。後列左からエドワード、スベンサー・L、アンドリュウ。

6

6. スターキ部長会の一員であり、アリゾナの青年実業家であった頃のスベンサー・W・キンボール。



7



8

7. 使徒のカルテット。左からマーク・E・ピーターセン、マッシュー・カウリー、スベンサー・W・キンボール、エズラ・タフト・ベンソン。伴奏はハロルド・B・リー。



8. 収集したインディアンの道具を持つキンボール。

予言者の略歴

スベンサー・W・キンボール大管長は、神と人への奉仕に捧げ尽くした過半生に引き続き、教会の大管長の責任についた。

以下にキンボール大管長の半生から主な出来事を拾って略歴とする。

1895年……3月28日、合衆国ユタ州ソルトレークシティーにアンドリュウおよびオリブ・ウーリー・キンボールの第5子として誕生。

1898年……5月、家族と共にアリゾナ州サッチャーに移る。父はサッチャーのセントジョセフスターキ部スターキ部長に召されていた。

1906年……6月6日、サミュエル・クラリッジの手により祝福師の祝福を受ける。将来レーマン人に福音を説くと言われる。

10月18日、療養先のソルトレークシティーで11子中8名を残して、母死去。

1907年……10月5日、ジョージ・A・フープスによりバプテスマ、ジョン・F・ナッシュにより確認を受ける。

1909年……日曜学校教師となる。

1910年……12月10日、ジェームズ・L・ウィルキンスによりアロン神権の教師に聖任される。

1914年……アリゾナ州ヒアラアカデミーをクラス委員長として最優秀の成績で卒業。

6月6日、父により祭司に聖任される。

9月15日、エドウィン・S・デービスによりメルケセデク神権の長老の職に聖任される。

10月16日、J・ゴードン・キンボールにより七十人に聖任され、合衆国中部伝道部で2年4か月間伝道。

1917年……11月16日、カミラ・アイリングと結婚。

1918年……1月1日、セントジョセフスターキ部書記に召され、父のもとで働く。

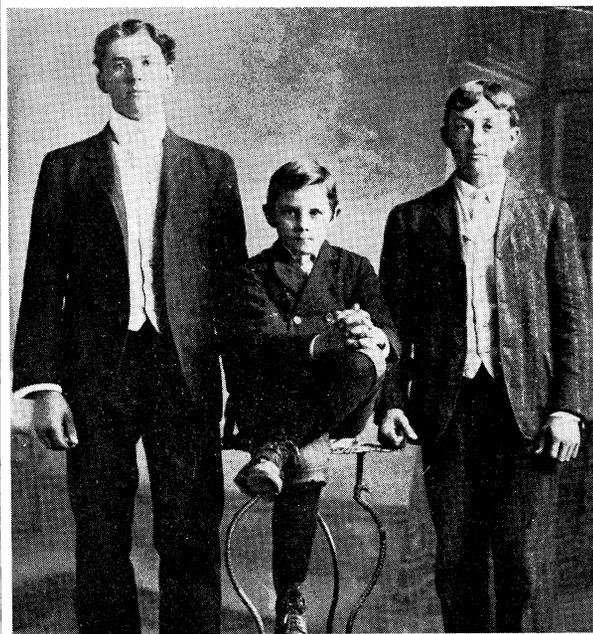
1938年2月19日までスターキ部書記を務める。

6月1日、ソルトレーク神殿で妻との結び固めを受ける。

1924年……8月31日、父死去。

9月8日、ヒーパー・J・グラント大管長により大祭司に聖任され、セントジョセフスターキ部第二副スターキ部長に召される。

9



9 キンボール家の3人兄弟。アンドリュウ・ゴードン、スベンサー・ウーリー、デルバート・ギーン。1906年頃のもの。

並の人にあらざる、スペンサー・W・キンボール

え、鋭敏な心を持ち、音楽を解する心を具えていた。すぐに交際が始まったことは言うまでもない。こうして数週間のうちにふたりはお互いにふさわしい相手であることを知り、やがて神殿結婚をした。

キンボール姉妹はすばらしい女性である。知性と教養に富み、健康に恵まれた女性である。

キンボール大管長にとって大切なものの中で、その中軸となるのは家庭である。キンボール夫妻には、4人の子供がいる。ふたりはもっと多くの子供を持ちたいと望んだが、霊たちがこの世に来る際に教えなければならない、生命のかのか弱い道が障害物によってふさがれることがしばしばある。霊にそれを越えさせることは、時には非常にむずかしく、また時には全く不可能である。

夫妻は子供たちに感謝している。彼らの息子3人は伝道に従事し、また4人共、神殿で結婚した。また現在、26人の孫と、10人の曾孫がいる。キンボール夫妻は、すべての両親と同じように、いつも家族について祈っている。各人が個性を持った霊で、それぞれに自由意志があることを意識し、ふたりは、父母とし、祖父母とし、また曾祖父母として気を配り、関心を払っている。

スペンサー・W・キンボール大管長は詩人である。多大の苦労を払って準備した彼の説教は、叙情味にあふれた、美しく、力強いものである。けれども力は、文の中ではなく、説教自体にあるのである。詩人は予言者に次ぐ者であると一般に言われている。しかし私たちは、キンボール大管長の中に、詩人の姿を持つ予言者を見いだすのである。

長年にわたる彼の説教の中で目立って多いのは、レーマン人についてのものである。彼らへの関心が、彼の務めの主軸をなしてきた。この神権時代の中で、スペンサー・W・キンボールほど、モルモン経のメッセージをレーマン人に伝えることに尽力してきた人はいない。彼ほど大きな熱意を持ってレーマン人が「主の誓約を知り、かれらはいつまでも棄てられないと言うことを」知らせる仕事をなしてきた人はいない。

レーマン人の子孫は現在6千万人以上いる。現在教会が、メキシコ、中南米、海の島々、また北米のインディアンの部族の間で栄えているのは、決して偶然ではない。キンボール大管長は、使徒としての彼の生涯すべてをかけて、彼らの中で休みなくその業を押し進め、また勧め、果たしてきたのである。

「リーハイの子孫を愛し始めたのはいつのことか、私にはわからない。誕生のときに訪れたのかもしれない。なぜなら、私が生まれる前後数年間、私の父はインディアン準州に住むインディアンの間で伝道に携わっていたからである。父は伝道部長であった。また、幼児の頃にこの愛を抱くようになったのかもしれない。幼ない頃、父はよく私たち子供に、インディアンの歌を歌ってくれたり、インディアンの友人からもらったおみやげや写真を見せてくれた。あるいは、9歳



の折に、祝福師のサミュエル・クラリッジ兄弟から受けた祝福師の祝福によって、この愛を持つようになったのかもしれない。その祝福には、次のような言葉があった。

『あなたは多くの民に福音を宣べ伝えるであろう。特に、レーマン人に伝えるであろう。主はあなたに、言語の賜と、その民の前に福音を非常にはっきりと現わす力の賜とを恵まれるからである。あなたは彼らを組織立て、また「この民を囲む」とりでとして立つよう備えられるであろう。』

私はいつ彼らを理解するようになったか知らない。しかしこれまでいつも、リーハイの息子、娘たちに好意を抱いてきた。

(スペンサー・W・キンボール、大会説教、1947年4月6日)

1946年9月13日付のキンボール大管長の日記には、次のように記されている。

「ジョージ・アルバート・スミス大管長よりインディアンの件で要請を受けて、彼の事務所へ行き、その伝道部内のナバホ族について話し合った。そして大管長は言われた。『今私はあなたに、これまで無視されてきたインディアンの世話をしてほしいと思っています。すべてのインディアンを見守ってほしいのです。全世界のインディアンすべてに責任を持ち、世話をしていただきたい。島々に住む人々も含めてです。』

そこで私は最善を尽くすことを告げた。同時に、以前2度私に与えられたこの務めは、文字通り祝福師の祝福を成就するものであることを告げた。……大管長は全世界のすべての

インディアンのための各種のプログラムにおいて、この委員会を指導してほしいと、私に言われた。」

キンボール兄弟の心の中では、この荷は軽く、くびきは負いやすかった。というのは、これが愛の務めだからである。

スペンサー・W・キンボールの働きの金糸とも言える特質があるとすれば、それはレーマン人への愛と、彼らの中での働きである。

キンボール大管長の事務所に入ると、レーマン人の間を旅したときの記念品が飾られている。彼がスー族に受け入れられ、ひとつの名前を与えられたときに贈られたスー族の羽根飾り、ホピ族の絵、またチリ・インディアンの絵もある。ノースダコタのパイン山脈に住む、優しいツー・ドッグズ姉妹が愛を込めて彫り、着つけをした木彫りの人形、アマゾン・インディアンの飾り板の彫り物、ある部族の弓と矢、ポリビア・インディアン男女の美しい彫像。その他、海の島々からの記念品も見られる。

キンボール大管長に与えられたインディアン名は、ワシユテ・ホー・ワンブリーである。文字通り訳すと、「良い声のわし」である。レーマン人の兄弟の言う所では、「真理の良きおとずれをもたらす声をあげながら、世界を飛び回る者」という意味である。

末日聖徒イエス・キリスト教会を管理するこの人は、並の人物ではない。彼は使徒に聖任された日、別人となった。すなわち、古代の使徒と同じように、主イエス・キリストの特別な証し人になったのである。

今日、主は特別な証し人として、スペンサー、ナサン、マリオン、エズラ、マーク、デルバート、その他、主イエス・キリストの使徒たちを召しておられる。主が過去の時代に聖任された証し人と同じ権能を持ち、同じ証を持って支持されているのである。

教会の頭は主御自身である。そして、スペンサー・W・キンボールは、予言者、聖見者、啓示を受ける者であり、教会の大管長である。大管長を良く知り、心から愛している者のひとりとして、またその特別な証を分ち合う者のひとりとして、私はこのことを証する。

10



10. キンボール大管長夫妻。1973年8月、ドイツのミュンヘンにて。

予言者の略歴

- 1938年……2月20日、マウントグラハムステーク部ステーク部長となる。
- 1943年……7月8日、ヒーバー・J・グラント大管長の代理、J・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長から電話を受け、十二使徒評議員の召しを告げられる。
10月7日、ソルトレークシティーでヒーバー・J・グラント大管長により、使徒に聖任される。
- 1946年……ジョージ・アルバート・スミス大管長からレーマン人のための特別な責任を受け、祝福師の祝福が成就される。
- 1951年……教会のインディアン問題委員会の一員として、国際連盟全アメリカインディアン会議に派遣される。
- 1952年……七十人最高評議員会のブルース・R・マッコンキー長老と共にメキシコおよび中央アメリカの地を奉獻し、メキシコ伝道部を分割、中央アメリカ伝道部を組織する。
- 1955年……4月13日から9月11日まで夫人同伴でヨーロッパの伝道部を歴訪。ノルウェー、スウェーデン、デンマーク、フィンランド、英国、オランダ、フランス、スイス・オーストリア、ドイツ西部、ドイツ東部各伝道部の116都市を訪問し、9月11日のスイス神殿奉獻で旅程を終える。
- 1957年……咽喉悪性腫瘍で手術を受け、片方の声帯ともう片方の一部を切除し、一時は発声不能となる。8月に退院。
- 1959年……2月7日ソルトレークシティーを発ち、7週間の日程で南米の3伝道部を回る。夫人同伴。
- 1960年……10月、同伴で南太平洋、オーストラリア、ニュージーランドの18カ国を巡る4カ月間の旅に出発。その間に4ステーク部を発足させる。
- 1961年……12月、十二使徒のハワード・W・ハンター長老と夫人同伴でヨーロッパおよび聖地エルサレムに出発。ヨーロッパ各地の大会を管理して翌年2月に帰国。
- 1964年……5月28日、ブラジル、ウルグアイの旅へ出発。
- 1966年……チリー、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジルへ旅行。
- 1970年……デビッド・O・マッケイ大管長の死去に伴い、十二使徒評議員会会長代理となる。
- 1972年……4月12日、心臓切開手術を受ける。
7月7日、ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の死去に伴い、十二使徒評議員会会長となる。
- 1973年……12月30日、ハロルド・B・リー大管長の死去に伴い、教会の大管長に抜手聖任される。

11



11. 1973年4月大会でリー大管長と共に

結婚後、カミラ・アイリング・キンボール姉妹は、教会の役職に対する責任感を夫と共に分けあってきた。スペンサー・W・キンボール長老が大管長に按手聖任されてから、キンボール姉妹の責任感はさらに増した。

1917年11月16日、キンボール大管長が結婚後3週間でステーク部書記に召されて以来、教会の役職にある夫を支え続けたキンボール姉妹は、現代の予言者の妻としての気持をこう述べた。

責任に対する気持を「念願」という一語に表わして、「重要な役職だと感じます。その大事な責任にある夫を助けたいと念願しています。夫の力をそぐようなことは決してしたくないと思います。」「夫の責任にふさわしい言動をしたいと心から願っています。夫のためにならないことをしてしまったら、とても悲しいでしょう。」

キンボール姉妹は夫の双肩にかかる召しの重みを感じつつも、快活に語った。「皆様が大好きです。冗談も笑いこらげること大好きです。」彼女は、人前に出て、普通の教会員と区別されるようなことはしたくないとも語った。「私は生

粋の末日聖徒の女性でありたいと思います。福音を愛しています。慰めと安心と幸福を感じる唯一の道は、福音に従うことです。福音は真実だと、心から確信しています。」

キンボール姉妹はメキシコのシエラマドレ山脈のふもと、コロニアアレスに生まれ育った。カミラ・アイリングが17歳になる1912年まで、家族はモルモンの小村に平穏で豊かな日々を送った。そしてその年、メキシコに内乱が勃発し、村の静けさは破られたのである。

7月に、カミラの父たちは村を去るべき時が来たと判断した。貴重品は床下や屋根裏に隠して、一家13人の所持品はトランクひとつだけであった。カミラの父は数週間以内に戻ってこれると考えていたが、実際にカミラがなつかしいこの家を再び目にしたのは40年後であった。

翌月、彼女の家族と子女や老人は、テキサスのエルパソ行きの汽車に乗り込んだ。客車から貨車にまであふれんばかりに千人以上の人々を詰め込んで、小さな汽車は駅を出た。

「汽車は発車時刻をとうに過ぎて、やっと息のつまるような7月の暑さの中に出発しました。苦しくてたまりませんで

カミラ・アイリング・キンボール姉妹



した。すしづめもいいところで、足を床につけるすき間がほとんどない車両もありました。それにいつ革命軍に襲われるかと、不安の連続でした。」キンボール姉妹は「故郷を追い立てられる気持でした」と、当時を述懐する。

エルパソに着くと、カミラの家族とその他のモルモンの避難民は、バラックの製材工場に仮住まいした。狭い空間を家族ごとに古びた毛布が隔てるだけだった。コロニアアレスで楽しい少女時代を送ったカミラは、そのような流浪の生活にとまどうばかりだった。

カミラがエルパソに着いて数週間後、ついにメキシコ政府は、合衆国内に身寄りのある避難民に汽車の切符を配給した。カミラは叔父のカール・アイリングを頼ってユタ州プロボのブリガム・ヤング・アカデミーに行き、そこで学業を終えた。「とうてい似つかわしくない17歳でした」とカミラ・キンボール姉妹は言う。彼女は、汽車でひとりプロボに発った晩のことを回想して語る。「私はひとりで決めこんで、コート荷物の中にしまいました。汽車がコロラド山脈にさしかかると、雪が降っているというのに、暖房がなかったので

す。危なく凍え死ぬところでした。綿の毛布を2枚巻いて持っていたのですが、プライドがあって、凍死寸前まで毛布にくるまることがどうしてもできなかったのです。へんなプライドで、あんなに苦しむ子はいないでしょうに。」

彼女は高校を優等で卒業したあと、1914年の6月に、大学の家庭経済学の特別証書を受け、教会のアカデミーで教える特典を得た。そして2年間をユタ州ヒンクレーのミラード・アカデミーで教え、1年はユタ州立大学に、ひと夏はパークレーのカリフォルニア大学に通った。キンボール姉妹は、「だれでも見識を広めようと、一貫して努力すべきだと思うのですよ。教会の目的のひとつは、心を活発に保つことでしょう」と言う。キンボール姉妹にとって、読書は子供時代から大の楽しみであった。彼女は絶えず知的成長を求めて努力する人である。

ユタ州立大学を卒業してから、カミラは家族の移転先のアリゾナで教師となった。キンボール大管長に初めて会ったのは、この教師時代のことである。

「ダンスのときでした。インスピレーションなど全然なか



ったんですよ」と、彼女は笑う。「私は新入りで、彼はダンスに誘いませんでした。ちょっと腹が立ちました。踊ってくれたってよさそうなものを持って。彼が伝道に出る前のことでした。久し振りに帰省して、ガールフレンドがたくさんいたのです。」

次にふたりが会ったのは、キンボール大管長が伝道から帰った後だった。ある秋の宵、カミラがバスを待っていると、青年スパンサー・W・キンボールが近づいて来て、「あなたはアイリングさんではありませんか」と声をかけた。「彼は私の住んでいた町の友人の家へ行くところでした。彼は自己紹介をして、バスに乗ると並んで腰かけました。遊びに行ってもいいですかと言われて、それから友情が始まり、恋愛になったのですよ。」

その翌週はスパンサーがカミラを家に訪れた。彼女は別の人のとのデートの準備で、化粧着に、ヘアカーラーを巻いていた。そしてスパンサーが帰らないうちに相手が出来てしまったため、結局その晩は2対1のデートになってしまった。カミラとスパンサーが愛を自覚するまで、長くはかからなかった。「9月に会って、結婚したのは11月でした」と姉妹は言う。

キンボール姉妹は、「幸福な生活は見つけるものではありません。作るものです」と言う。夫と4人の子供と27人の孫と多くの友人たちは、彼女が自分の生活の大きな喜びとなってきたことを口々に語る。キンボール姉妹は、幸福な結婚生活ができたのは、結婚や人生についてふたり共福音を理解しておいたおかげだと言う。「私たちは結婚が永遠で、今は自分たちの現状だけでなく将来も築いているのだということを知っています。」「ふたり共同で理想を持っていますし、生い立ちも似ています。どちらも決して豊かではありませんでした。節約しなければならなかったし、お金についての考え方は同じなのです。教育についても福音についても同じ希望を持っています。」

キンボール姉妹の幸福への道には別に秘訣はない。「福音を守れば幸せになれるのですよ。」彼女はこう語る。「福音は何もかも含んでいます。人々を幸福にするためのものなのです。」

キンボール大管長夫妻は、ユタ州ボネビルステーキ部のモニュメントパーク第2ワード部に所属し、姉妹はワード部扶助協会の霊的生活の教師である。非常に計画的な彼女はこう語る。「時間はとても大切だと思います。建設的なことに時間を使いたいと思います。じれったがり屋で、腕組みしてすわってなどいられないんですよ。」

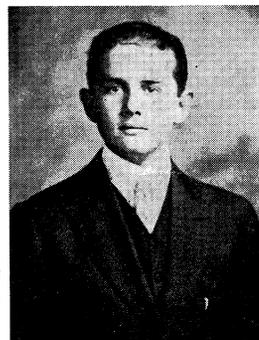
彼女は、扶助協会の勉強が生活全般にわたり、非常に刺激になると考える。「私は扶助協会が大好きです。扶助協会に

出る機会を無駄にする人がいるのはどうしたわけかと、不思議でなりません。」

キンボール姉妹は、扶助協会の教科書はどの学習にもためになると感じ、女性は絶えず自己を向上させるべきだと考えている。「女性は知的にいつもはつらつとしていなければ、年をとって怠け者になり、いろんな本を読もうとか時間を有効に使おうという気持を忘れるのは簡単です。」

「母親はいつも子供がどんな影響を受けているのか気をつけていて、誘惑があったときによく理解できるようにしなければいけないと思います。」そしてさらに続けて、「おばあさんでも、孫に影響を与えるようであれば、私の子供たちに教えようという心掛けてきたひとつのことは、人は完全ではないということ、でも福音の計画は完全だということ、もし福音の計画に100パーセント従えば完全への道を立派に歩めるのです。」

彼女の喜びにあふれた生活は、たとえ苦しいときにも自己を忘れる人、永遠をはっきりと見定めてこの世の偽りのプライドを捨てる人に、どんな幸福がもたらされるかを告げている。「私のこと、美德の典型みたいにしないで下さいね。とっても人間っぽいんですから」と、彼女はつけ加えた。しかしキンボール姉妹を知る人々は、箴言のある聖句を思い出すのである。「だれが賢い妻を見つけることができるか、彼女は宝石よりもすぐれて尊い。……彼女はその商品のもうけのあるのを知っている。そのともしびは終夜消えることがない。」(箴言31:10, 18)



1. 1914—16年に中部諸州伝道部で伝道していた頃のスパンサー・W・キンボール長老。



2. ギラ・アカデミーの教師で、スパンサー・W・キンボールと求婚中だった頃のカミラ・アイリング。

旧約聖書の成立ち

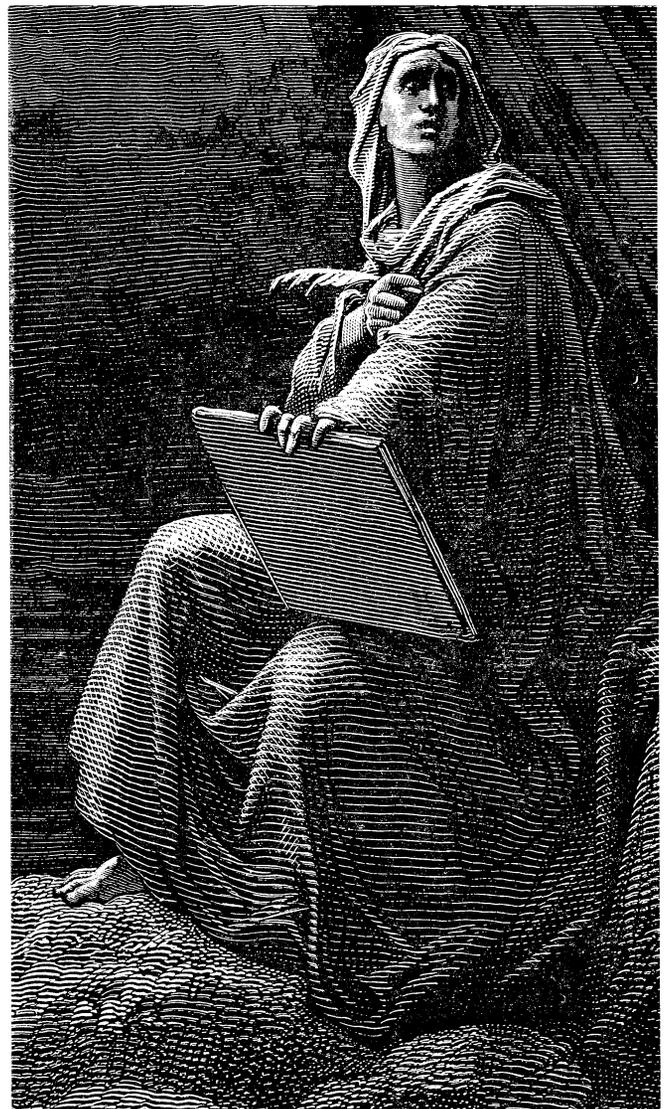
旧約聖書はいろいろな意味で私たちにとってなじみにくい書物である。私たちの時代からはるかにかけ離れた世界について、またそこに住む人々について語っているからである。しかし、イエス・キリストの福音を完全に理解するためには、聖書の中でも旧約聖書について知る必要がある。どのようにしてできたか、正典としての権威を与えたのは何か、またその言葉に今日の私たちに語りかけるものがあるのはなぜか、などについてである。

旧約聖書を聖典として尊んでいたペテロは、こう言っている。「聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでない…なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、⁹ 神によって語ったものだからである。」(Ⅱペテロ1:20, 21)

ペテロがこう述べたのは、聖書を自分勝手に解釈する人々のことを案じたためであった。しかし、彼のこの言葉は同時に、なぜ旧約聖書が聖典であるのか、なぜキリスト教徒もユダヤ教徒も旧約聖書を正典として受け入れているのか、またなぜ末日聖徒が旧約聖書を標準聖典のひとつに数えているのかを、明らかにしている。(教義と聖約50:13-24, 68:1-5, Ⅰニーファイ22:2参照) 神の人が、戒めによって主の民に語るよう権威を与えられ、靈感を受けて語るとき、その言葉は権威ある言葉となるのである。(教義と聖約28:2, 43:1-7)

私たちは、聖典の記録も不完全な人によって書かれたことを知っている。(イテル12:23-29) また旧約聖書には、書き写していくときに生じた誤り、翻訳上の誤り、さらに人が故意に手を加えたために生じた誤りがあることもわかっている。(モーセ1:23, 40-42, Ⅰニーファイ13:23-29) 所によっては、靈感を受けた人が書いた本文は、今日そのまま伝わっていないが、旧約聖書の価値は何世紀たっても失われず、人々に恩恵を与え、靈感を与えてきたのだった。

キース・H・メサービー



約6千年前に、神聖な記録の最初の著者がその仕事にかかっている。その著者は、自分がとりかかろうとしている、記録をつけるという仕事がどんなに膨大な作業であるかを知っていただろうか。またこの種の記録が子孫の生活にどんなに大きな影響を及ぼすかを知っていただろうか。恐らく知っていたに違いない。仮に知らなかったとしても、初期の記録者が、自分のしていることを非常に大切に考えていたことは、明らかである。

アダムがその最初の人であった。アダムの記録には、主のしもべの選ばれた家系の系図（モーセ6：8、教義と聖約107：40—42、アブラハム1：4）、その家系が神権を受ける権利を持っていたこと（アブラハム1：28、31）、救いの計画の知識（モーセ6：45—68、7：1）、創造の物語（アブラハム1：28、31）、そのほか主から与えられた予言的な教えが、記載されていた。

以上のすべてのことをアダムは自分で書かなかったかもしれない。自分で書かなかったとすれば、アダムの後に続いた人が書いたのである。その中にエノクがいた。エノクは、アダムの子らが大量となつて集まっているとき、主御自身が忠実な者の前に姿を現わされたことを記録している。（教義と聖約107：53—57）

記録したのはアダムとエノクばかりではない。アブラハムも書いている。（アブラハム1—5）ヨセフも重要な予言の記録を書いた人として知られている。（Ⅱニューフェイス3、Ⅱニューフェイス4：1、2）これらの人々は、記録をつけるときの標準を定め、それがその後幾世代も保管される記録の種類を、自然に決めていったものと思われる。

モーセは全くこの型に従って書いたので、律法として知られる彼の書き物は、ユダヤ人の聖典の中で最も有力な地位を占めるに至っている。

モーセの書いたものがこれほどまでに大きな比重を占めるひとつの理由は、モーセの在世中に、何か重要なことが起こって、彼が主から受けた啓示に影響が及び、また当時の人々の手に入る過去の聖典に影響が及んだためであると思われる。

アダムの時代からモーセの時代に至るまで（約2700年間）、主の業はメルケゼデク神権の管理と律法によって推進された。（教義と聖約107：40—57、84：6—17）従って、この

期間に人々が神から受けた啓示と戒めは、人々が所持していた神権の権威に相応していた。啓示は書き記され、その当時の主の子らを治める聖典となった。

主はモーセに従う人々にも、同じ教えと導きを与えようと思われた。しかし、人々は心をかたくなにし、背を向けた。主は戒めを与えられたが、人々は従わなかった。その結果、主はその戒めを取り消し、人々の状態に応じて働きかけ、導くことにされた。従って主は民の間から完全な神権とその神権のもたらす祝福を取り上げられた。主は、この完全な神権の代りに、小さな神権、すなわちレビ神権と、その力に相応する律法を人々に与えられたのである。（モーサヤ13：28—30、ガラテヤ3：6—29）出エジプト記、レビ記、民数記、申命記に収められているいわゆるモーセの律法が、それである。（教義と聖約84：6—28、霊感訳出エジプト34：1、2、申命10：2、ヘブル4：10）

モーセは明らかに、アダム、エノク、アブラハム、ヨセフの書いたものを編集し、創世記を著わした。またモーセは、低い律法を載せた続く四つの書を書いている。イスラエルの子らが高い律法を受け入れる用意ができていなかったためである。

この人々に与えられた新しい計画は、以前のものとは性質を異にしていたので、これを福音のモーセの神権時代と呼ぶことができよう。この神権時代は、事実上主が新しい立法者を起こされるまで続いた。この新しい立法者は、モーセが定めた物事の古い秩序を変える権能を持っていた。（イエス・キリストがその立法者であった。）この立法者が新しい律法と新しい神権時代を携えてきたとき、民は霊的に機敏になっていて、新しい事態に適応し、古いものを捨てて新しいものを受け入れる用意ができていた。モーセ自身、民にその準備をするように勧めている。（申命18：15—19、Ⅱニューフェイス26：1、32：6、Ⅲニューフェイス9：17—22、15：1—10、20：23、ヨハネ5：45—47）

このように、アダムの時代にイスラエルの中に定着したメルケゼデク神権とその律法は、モーセの時代に引き上げられ

た。アダムからモーセの時代に至る教会についてほとんど記録が残っていないのは、このためであると思われる。神権が取り上げられたときに、その律法と記録も同時に取り上げられたものと推測される。(アルマ12：9—11, イテル4：1—7)

アダムからモーセに至る時間は、モーセからキリストまでの時間の約2倍に相当するにもかかわらず(アダムからモーセまでは約2,700年, モーセからキリストまでは約1,300年)旧約聖書はただひとつ創世記を除いて全部、モーセの神権時代の確立とその長期継続の次第を扱っている。従って旧約聖書は、基本的にモーセの「教会」の記録であり、啓示であって、創世記はその序説に当たると言えよう。

過去から蓄積された記録を編集し、創世記を書いたのは、モーセであると推測される。(モーセ1：42, 2：1)編集し書くに当たって、モーセは民にとって最もためになるものと、もうひとつ次のものを選んだ。それは、民が自分だけであり、どこから来たのか、また選民としての召し、契約の背景、そして現在および将来神に対して負う責任を理解するのに必要な知識を与えるものであった。(創世12—50)アダムからアブラハムに至る2000年間の歴史は、わずか9章(創世3—11)に収められており、その前に創世の次第が記されているのである。(創世1, 2)

創世記に続く出エジプト記、レビ記、民数記、申命記は、神権の変更を記している。また、その神権に係る律法が与えられ、モーセの神権時代が始まった次第を伝えている。上記の書に収められたモーセの律法が、この時代の基本的な、土台となる律法となった。このモーセの律法は、今日の教義と聖約に似た役割を果たしたのである。

他の予言者たちは、このとき確立されたものの上に築いていった。ただ、後に見られた様々な進展も、その土台は律法なのであった。このとき以来、イスラエルの子らはこの律法を学び、この律法に従うことになった。民の厳然たる手引き——彼らの鉄の棒となったのである。(申命6：1—9, 10：12, 13, 5：28—31, 17：18—20, ヨシヤ1：5—8)後の予言者や指導者は、行動の基盤として絶えず律法を引用した。モーセの死をもってこの律法集は閉じられ、もはや追加されることはなかった。それ自体ひとつのまとまったもの、

モーセの律法となったのである。

続いてモーセ以外の予言者兼著者が現われてきた。ある者を私たちは知っているが、ある者は知らない。ヨシヤは予言者になるように召されなかったかも知れないが、みたまの導きに従ったので、傑出した人物となった。(民数27：18)ユダヤ人の伝統によれば、ヨシヤは同名の書の著者であるとされている。しかし実際には、ヨシヤ記を書いた人の資料の著者であったとする方がより正確であろう。

士師記とルツ記の著者がだれであるかは不明である。ユダヤ人は、伝統的にサムエルが士師記を書いたとしている。これは大いにあり得ることである。なぜならサムエルは一部公的な記録をつけていることがわかっているからである。(サムエル上10：25) 続いておそらく時期は王国が確立された頃と思われるが、保存する記録の種類がまた根本的に変わった。このとき以来、国王のことを扱った記録——すなわち諸王の歴代志という記録が追加されたものと思われる。(列王上11：41, 14：29, 15：7, 15：31等)これらの記録は、列王紀の著者にとって同書を書くときの資料となった。同時にこの著者は、いろいろな予言者の予言と啓示を資料にしている。(歴代上29：29, 30, 歴代下9：29, 12：15, 13：22, 32：32, 33：15, 19等)ほかに国王のことを記した記録が使われたが、以上のものが歴代志を書くときの資料になっている。

真鍮版に二種類の記録があったことを記しているニーファイ第一書5：10—13を読んでいただきたい。また特にニーファイに二種類の版を作るよう命じた主の言葉を読んでいただきたい。ニーファイは小版と大版の両方に記録をつけるように指示されていた。(I ニーファイ9：3, 4) 聖書を見れば、様々な記録がつけられたことと、今日聖書に収められた各書の編集者はこれを手にすることができたことが明白である。

列王紀と歴代志の著者がどんな種類の資料を活用したかが少しでもわかれば、このふたつの書の間に見られる相違を説明することができるだろう。

ユダヤ人は聖書を、律法、予言者、諸々の3つに分類している。律法に分類されるのは、創世記から申命記までの五書である。ヨシヤ記、士師記、サムエル記、列王紀は予言者

の書の中に数えられている。私たちにはよくわからないが、何らかの理由で、歴代志はこの予言者の書には分類されないで、諸書の中に数えられている。

以上の書はみな、ひとりの編集者または複数の編集者によって整理され、現在私たちが持っているような形になったものと考えられる。編集者は、ちょうど先任者の記録を編集したモルモンのような役割を果たしたに違いない。

「紀元前 600 年頃には、編集された一冊の聖典が存在した。当時の聖典は明らかに律法、王国の記録、予言者の書いたものを含んでいた。そして予言者の書いたものには、私たちの旧約聖書に出てこない予言者（ヨセフ、ゼノス、ニーテム、ゼノク）の書も含まれていた。

編集者の手が聖書の中に働いているのを読み取ることは、簡単である。読んでいる内容がわからなくてじれったい思いをするとき、私たちは著者の肩越しに直接資料を見ることができたらと思うことがよくある。しかし、編集者のペンは断固とした調子である。取捨選択の判断は、編集者にかかっている。モルモンが要約の作業に携わっているのを観察し、彼が主の指示のもとにどれくらい良心的にその作業を完遂したかを思うと、大きな感銘を受ける。モルモンが資料に追加したり（モルモン言 5—7）、取りあげなかったりした（Ⅲニーフアイ 26：6—12, 28：25）ときは、必ず主から具体的な指示を与えられて、そうしていたのだった。

後の予言者（イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、ダニエル、十二小予言者〔ホセアからマラキにいたる〕）は全部それぞれ同名の書を書いたものと考えられる。この見解は、学者の意見の中では、稀な異説とうつつるかもしれない。しかし、末日聖徒は、だれが古代の記録を書いたか、その記録はどのように収集編集されたか、さらにこの責任がどれほど神聖に受けとめられ、果たされたか（この原則には例外があるが、あくまで例外であって、原則を変えるものではない、例オムナイ 8—11）を示す聖典を聖書以外に数冊持っている。

そればかりでなく、私たちは自分の生きている時代に、自分たちの聖典が出現したのをこの目で見ている。そして同時

に、絶えず生ける予言者から導かれ、恩恵を受けている。予言者は自分と同じ時代に住む人々を、導き助ける責任があることは事実であるが、だからといって、未来に起こる出来事を予言できないというわけではない。霊的な識別力という点では、自分の生きている時代だけに制約されてはいないのである。

予言者が予言を書いたとき、彼らの一部または全部が書記に書き取らせたに違いない。エレミヤはこの方法を採用している。少なくとも何回か書き取らせていることは確かである。（エレミヤ 36：1—4）ジョセフ・スミスも同じ方法をとった。しかし、それでも予言者の言葉は予言者の言葉である。予言者の書いたものをもとに、後世の著者や編集者が一部記録を書いたということも考えられる。

聖書の残りの部分は、ユダヤ人が「諸書」と呼んでいる記録である。この区分には、詩篇、箴言、ヨブ、雅歌、ルツ、哀歌、伝道の書、エステル、ダニエル（私たちはダニエルを予言者に分類している）、エズラ、ネヘミヤ、歴代志が含まれる。以上の書は明らかにニーフアイ当時の聖書には含まれていなかった。そうであるとすれば、バビロン捕囚のときかその後に加えられたに違いない。

これらの記録のあるものは、なぜ正典に含まれるに至ったかその理由が理解できるが、ジョセフ・スミスが靈感によって聖書を改訂したとき、彼が完全に聖書から除外した書がひとつある。靈感訳聖書の原稿に、「雅歌は靈感を受けて書かれた書ではない」という注が書かれている。従って末日聖徒は、雅歌が聖典の中に含まれている理由を示す必要はないのである。

ほかの書はどうだろうか。「すべて心の歌は、われの悦びなり。然り、義しき者の歌はわれに対する祈りなり。彼らの頭に祝福を与えてその応えとなさん」（教義と聖約 25：12）と言われた主の言葉を思い返すと、様々の人が歌ったヘブル人の歌集、すなわち詩篇が聖典に含まれた理由がすぐ理解できるだろう。伝統から言っても、一部の詩篇の表題から言っても、ダビデがこの書に最大の貢献をしていることは明らかである。詩篇の歌は、非常な信仰と霊的な力をみなぎらせているので、キリスト教がユダヤ教から分離して以来、キリスト教徒を感激させ、非常な熱意を起こさせたのだった。

一部の鑑識眼のある学者は、ヨブの証を世界で有数の文学作品であると評価している。ヨブ記は、人と、人を扱う主の方法という、古来から問題になっていた事柄と取り組んで、胸をさすような調子で、劇的に描いている。この書に示された信仰は、人類の思想という潮にたとえてみれば、満潮時の最高の記録を打ち立てたのである。

箴言と伝道の書は、知恵文学に分類されるものであり、人生の実際的な問題に深い洞察を与えている。伝統的には、ソロモンが雅歌と共にこの二書の著者であるとされている。エズラ記とネヘミヤ記は、もともとひとつの書であり、バビロン捕囚(紀元前538年およびそれ以降)後のユダヤ人の帰還を記している。そして列王紀下と歴代志下の末章で終わっているユダヤ人の歴史を再び取り上げている。この二書は恐らくエズラが書いたものと思われる。

エステル記は、非常に美しい物語である。そして、外国人の中に長い間住み、征服者の気まぐれになすすべもなく従属させられるという状態を経験したユダヤ人を、大いに感激させた。エステル記はその著者も書かれた時期も不明である。

現在旧約聖書を構成する書は39ある。以上私たちは、古くはアダムに始まり、人々が、人の生活の中に働く主のみ手を記した本を書いた次第と、定期的にそれらの書がまとめられ、未知の編集者によって編集されてきたことを見てきた。これはモルモンが行なったことと同じであって、膨大な記録の分量を減らし、当時の人々に活用しやすくすることは、必要なことだったのである。

紀元前600年頃には、編集された一冊の聖典が存在した。当時の聖典は明らかに律法、王国の記録、予言者の書いたものを含んでいた。そして、予言者の書いたものには、私たちの旧約聖書に出てこない予言者(ヨセフ、ゼノス、ニーアムゼノク)の書も含まれていた。そしてニーファイの時代とキリストの時代の間に、他の記録が追加され、現在私たちが持っている聖書の39書に達したのである。その間にさらに編集の作業が行なわれたに違いない。

私たちはよく旧約聖書には39書あると言って、別にその数字を改めて吟味してみることはない。しかし、ユダヤ人の聖書は24書である。そして私たちは、ユダヤ人の24書は私たちの39書と全く同じだとすぐ注釈をつけようとする。ところが

聖書の各書の数え方や配列のしかたは、私たちの聖書(欽定訳聖書)と異なっている。

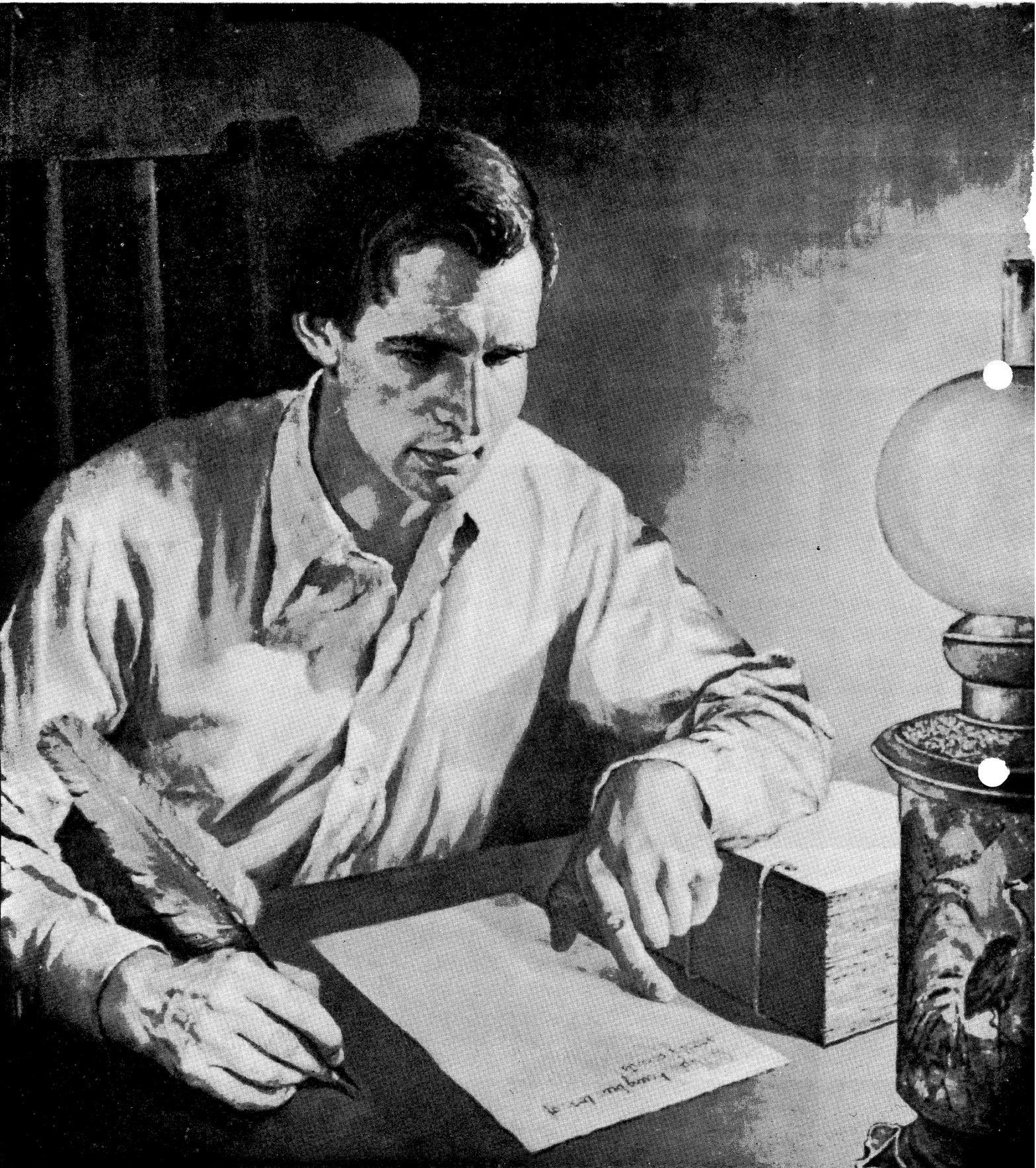
他方、カトリック教会の用いている聖書は、構成する書の数も配列も異なるばかりか、ユダヤ人もプロテスタントも除外した書を追加している。これは聖書外典であって、カトリック教会は、正典の他の書と同じように神聖なものであるとしている。

プロテスタントがカトリック教会から分離して、聖書がすべて信じる者がより所とすべき根拠であると主張するに至ったとき、どの書を聖書に含むべきかという問題が重要になってきた。プロテスタントは、聖書の内容については、パレスチナのユダヤ人の声に従うべきであると決定した。その結果プロテスタントは聖書外典を、聖書から除外したのであった。聖書外典に対する末日聖徒の立場は、教義と聖約91章に記されている。

パレスチナのユダヤ人は、どのようにして正典に含む書を決定したのだろうか。これだけ時間の隔りがあるので、彼らをとった手続きは明らかでない。どの書が権威のある書で聖典として適切であるか、またどの書がそうでないかという価値判断を、だれかがしなければならなかった。そのような決定が、モルモンの場合のようにひとりの人の責任であったのか、教義と聖約が編集されたときのように何人かの人々によって下されたのか、私たちは知らない。

旧約聖書自身の中にある数多くの手掛りと、末日の啓示から、旧約聖書の起源、その生い立ち、さらには数多くの書からなる正典として完成した過程について、幾分かが明らかになるが、依然として不明な部分がたくさん残っている。しかし、ひとつははっきりしていることは、旧約聖書を生み出し、伝承する過程で主のみ手が働いていたということである。旧約聖書は驚くべき書物である。ある点で私たちが持つ他の聖典とよく似ている。しかし、私たちに「主がほかの地で昔の民の中でなしたもうたこと」(I ニーファイ19:22)を知らせるという、独自の役割を果たす書物である。

メサービー兄弟は、ブリガムヤング大学「古代の聖典」学科で教える助教授で、プロボ市プレゼンティブュー第3ワード部の第二副監督をしている。



近代の啓示

—旧約聖書への窓—

ロバート・J・マシューズ

末日に与えられた啓示は旧約聖書を理解する手がかりを与えてくれる。なぜなら旧約聖書それ自体が持つ趣旨や意図は、今もなお脈々と生き続けているからである。すなわち私たちは、末日の啓示を通して、主が私たちの世代に何を望んでおられるかを推測し理解することができるのである。予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示で直接旧約聖書に関連を持つものは、以下の3種類に大別できよう。

1. 古文書の回復とその翻訳。これにはモルモン経、アブラハムの書があげられる。これらはその起源を聖書と同一の環境のもとに有し、この神権時代において、私たちの使用に供するために神の予言者により翻訳された。従って私たちはこの翻訳が正確なものであることを確信するのである。

2. 特定の旧約聖書予言者の書き記したものの回復だが、ジョセフ・スミスが実際には手にしなかったもの。これには予言者ジョセフ・スミスに啓示されたモーセの示現と著、およびエノクの予言を内容とするモーセの書が含まれる。従って古文書の翻訳であるモルモン経やアブラハムの書とは趣きを異にする。

3. 旧約聖書に記されている出来事や人物に関して予言者ジョセフ・スミスに与えられた神の啓示。教義と聖約の中には、聖書の原典を翻訳したものではないにしても、聖書に登場する人物や出来事について示唆を与えてくれる啓示が数多く見受けられる。第84章、107章、132章がそれに当たり、いずれも旧約聖書の理解に大いに役立つ啓示であると言えよう。

このように、末日聖徒は旧約聖書に関して文書資料を豊富に持っている。従って研究の際にそのような資料を利用しないとしたら、片手落ちだと言えよう。

予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示によると、聖書の記事は完全とは言えないまでも、本質的には正しいものであることがわかる。すなわち啓示によると、この世の創造が神のみこころによりあるひとつの目的をもって慎重に進められた神聖なみ業であったことは確かである。また人間が神の単なる被造物ではなく、同じ族、同じ家系のもとに生まれた文字通り神の子孫であるという、聖書の主張を証明してくれる。さらにアダムの墮落が事実であり、人類の進歩の一段階として不可欠なものであったこと、また墮落を予期した天父が人類のために救い主をお与え下さったことを、末日の啓示は教えてくれるのである。(モーセ4：1—4、アブラハム3：22—28、Ⅱニーファイ2：22—26参照)

末日の啓示はさらに、イエス・キリストの福音が天の使いによってアダムに教えられたことを示している。これは、現在不完全な状態で利用している聖書の記録を補足するもので

ある。アダムはイエス・キリストを信仰していたし、救いの計画を知っていた。そしてそれを子供たちに教えていたのである。

予言者への啓示はさらに、旧約聖書の族長や予言者がこの地上に住んでいた実際の間人であることを明らかにしている。また彼らが神と天使により教えを受けた知性あふれる義しい人々で、その導き手として聖霊と神権とを授けられていたことを示してくれる。まさに神の王国はアダムの時代に建設されたのであり、神権の権能は、それを持つ者が按手聖任を行なうことにより、始めから今に至るまで代々受け継がれてきたのである。

これから述べる中には、今の世代の人々にとって目新しいものも少なからずあるだろう。それは末日の啓示であり、すなわち現在私たちが使っている聖書の翻訳には記されていないものだからである。その他は旧約聖書の記録中に暗示されているので必ずしも目新しいものではないかもしれない。しかし聖書と比較してかなり明確に、また強調を込めて語られているので、これらも取り上げて検討してみようと思う。

たとえば旧約聖書の読者は、古代イスラエル人の神が「エホバ」という名によって知られていたことを承知している。けれども聖書しか読まない読者は、イスラエルの神エホバが後にバツレヘムでマリヤから生まれたもうイエス・キリストであることを往々にして知らない。シナイ山でモーセに十戒を授けたもうた御方は、この世に生誕される前のイエス・キリストなのである。末日の啓示はこの点を極めて明白に示してくれる。またそのエホバの神が地上に来临して世の救い主となられることを、古代の予言者たちは十分に理解していた。さらに復活されたイエスはニーファイ人に、モーセに律法を授けたのは御自身であることを示したもうた。(Ⅲニーファイ15：4、5参照) 主はまたこのように言われた。「われがイスラエルの神にして全世界の神なること、またわれが

世の人の罪を負うて一度殺されたるを……。」(Ⅲ ニューフェイス 11:14)

燃えるしばの中の声はモーセに、神の呼び名のひとつが「わたしは有る (I am)」であると言った。(出エジプト 3:14参照) 教義と聖約には、イエス・キリストと「われ有り (I am)」が同一の御方であることを断言している聖句がふたつある。(教義と聖約 38:1, 39:1 参照) このように末日の啓示から、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフおよびモーセと誓約を交わしたもうたイスラエルの神は、エホバ、「われ有り」、イスラエルの聖者、そしてイエス・キリストとして知られる御方であることを理解するのである。

末日の啓示を研究すると、私たちが現在使用している聖書を補足し追加する箇所がほかにも見いだせる。そのうちいくつかを具体的に示してみよう。

1. アダム 末日の啓示、特に高価なる真珠のモーセの書の中には、アダムが水に沈められるバプテスマを受け、聖霊を授けられたこと、また供え物を捧げていたことが記されている。さらにアダムが子供を多くもうけ、子孫と共にアダム・オンダイ・アーマンの谷に集まり、そこで主にまみえたことも教えられている。

2. カイン 旧約聖書に記録されていることに加えて、カインの供え物を神が顧みたまわなかった理由 (モーセ 5:18)、カインが主のみ声に耳を傾けないでサタンに誓い、同類と秘密に計ごとを立てて得を得ようとしたこと (モーセ 5:26-33, ヒラマン 6:26, 27)、またカインの妻がだれであったか (モーセ 5:28) を末日の啓示から知ることができる。

3. エノク 旧約聖書にはエノクについて、創世記の 6 節 (5:18-24) を除きほとんど記されていない。私たちはモーセの書から、彼の使命、大いなる予言、その市、そして天にあげられたこと、あるいは主よりの召しや彼がイエス・キリストの福音について豊富な知識を持っていたことを学ぶ。(モーセ 6:21, 7:69 参照)

4. メツセラ この人についても聖書にはほとんど何も記されていないが、末日の啓示は、エノクの市が天にあげられたときに彼がこの世に残ることを許されたこと (モーセ 8:2, 3)、また彼がアダムにより神権に按手聖任され、ノアに神権を授けた (教義と聖約 107:50-52) ことを教えてくれるのである。ジョセフ・スミスは、エジプトで発見されたパピルスからメツセラが天文学者であったと指摘している。

(ジョセフ・フィールディング・スミス, *Man, His Origin and Destiny* 「人、その起源と行く末」[英文] P. 269, 470. 488 参照)

5. ノア 聖書にはノアが洪水の来る前に何々人々に説いたか詳細は一切記されていない。けれどもモーセの書によればノアは、イエス・キリストを信仰し、悔い改め、水に沈められるバプテスマを受けて聖霊を受けるように説いたことが明らかである。末日の啓示は彼を、聖書を読んだ者がだれでも想像するような単なる天気予報者とは見ていない。それよりもむしろ予言者として扱っている。またダニエル、ザカリヤ、マリヤを訪れた天使ガブリエルがノアであったことも教えられている。(ルカ 1:5-17, 26-38, ダニエル 8:15 以降参照)

6. メルケゼデク メルケゼデクについては、アブラハムに関連して (創世 14:18-20)、詩篇に (110:4)、そして数回にわたってヘブル人への手紙 (5-7 章) に極めて簡単に記されている程度であって、聖書の中では一種神秘的な人物として扱われている。これらの聖句では彼がアブラハムからすべての物の什分の一を贈られた大祭司として紹介されているが、そのほかのことについては、ほとんど語られていない。末日の啓示から学ぶことは、彼がすべての民に悔改めをもたらした偉大な正義の説教者であり (アルマ 13:18, 19 参照)、アブラハムに神権を授けたこと (教義と聖約 84:14)、また彼が偉いなる大祭司であったことから、古代の教会員が神権をその名にちなんでメルケゼデク神権と称えた (教義と聖約 107:1-4) という点である。以上のことは何ひとつ聖書に記されていない。

7. アブラハム 聖書はアブラハムについて多くを語っているが、アブラハムの書が与えられているという点で末日の啓示には及ばないであろう。この末日の聖典が加えた新知識のうち特筆すべきものは、アブラハムが天体に通じていたこと、前世での生活を知っていたこと、それに生前から予言者として予任されていたことなどである。また天地創造に関する補足的な説明と、アブラハム自身が交わした誓約についてのより詳細な解明と知識なども含まれている。

8. ヤコブ 末日の啓示の中で特に興味をひくのは、教義と聖約 132:37 に、アブラハム、イサク、ヤコブが今では共に神々となっていること、そしてそれは、とりもなおさず、この世にあるときに彼らが、神に信仰を持ってよく聞き従ったからであると記している点である。

9. ヨセフ モルモン経は、ヨセフの祝福と神が彼と結びたもうた誓約が成就したことを示してくれる。(Ⅱ ニューフェイス 3:4, 4:2 参照) 聖書には彼の予言はあまり見られないが、末日の聖典にはモーセとアロンがイスラエルの人々を率いてエジプトを脱出したこと、末日にヨセフ (ジョセフ) という名の聖見者が現われることなど、ヨセフの予言や説明

—ジョセフ・スミスと旧約の人物—

が多く含まれている。(I ニーファイ 3, 靈感訳創世50:24—38参照)

10. モーセ 高価なる真珠のモーセの書に記された末日の啓示は、シナイ山での出来事をはじめ、モーセの示現や書き物に関して詳細にわたり説明してくれる。これによりモーセに対する理解が深まった。

11. ヨシュア 主がヨシュアの統率するイスラエル軍勢をカナンに攻め入れさせ、多くの住民の死を顧みずその地を占領させたもうたのはなぜか、その理由は末日の啓示から知ることができる。(I ニーファイ17:31—35参照) モルモン経に流れるこれらの思想は、一つの重要な福音の原則に立脚している。すなわち人が神に選ばれるのは偶然によるのではなく、義しいが故に選ばれるということである。言い換えれば、国家や民が悪事を行なうようになれば、主がこれを拒みたまうということである。このことを念頭におけば、旧約聖書に出て来る難解な、しばしば誤解を招く出来事もはっきり理解できるのである。

12. 予言者エライジャ (エリヤ) 予言者ジョセフ・スミスに賜わった啓示から、予言者エライジャが神権の結び固めの鍵を持っていたということがわかる。(教義と聖約110) これは天から火を下し、天を封じる能力が彼にあったことを確信させてくれる。そのため3年半の間、イスラエルには雨が降らなかった。(列王上17—18参照) 1836年オハイオ州のカートランド神殿にエライジャが訪れたことにより、マラキ4:4—6の予言をより完全に理解できるようになった。(教義と聖約2, 110参照)

13. イザヤ 末日聖徒に与えられた啓示の中でも、特にモルモン経はイザヤの予言について種々の解釈や説明を提供している。これはイザヤを理解する手がかりを与えるものである。モルモン経はイザヤの聖句を繰返し引用した後、その真意を注釈することを忘れない。特にこれらのことはニーファイ、ヤコブ、アビナダイ、そしてイエスの教えの中に見られる。

末日の啓示の中には、そのほかにも旧約聖書を理解する助けとなる多くの解明や暗示が見られる。各聖典は相互に真理を証するものであり、末日の記録は聖書から失われた数多くの平明でしかも貴重な部分を私たちに示してくれる。すべての聖典は、究極的には「一つと合わされ」、真理を確立して論争を鎮めるために「共に成長する」であろう。このようにして多くの人々は「その贖い主の教えの最も重要な点を知るようになって、贖い主のところへ立ち帰って救いの道を感じるのである。」(I ニーファイ13:40, II ニーファイ3:12, 29:8, 12—14, I ニーファイ15:14も参照のこと)

福音の回復の物語ほど、私たちに鼓舞してくれるものはない。数多くの人物が幕のかなたからジョセフ・スミスのもとを訪れ、これが回復の幕開けとなった。彼らの地上での生涯については旧約聖書に記されている通りである。ジョン・テイラー大管長の言葉を借りよう。「それはアブラハム、イサク、ヤコブ、ノア、アダム、セツ、エノク、イエス、天父、そしてアジアおよびアメリカ大陸に住んでいた使徒である。ジョセフは、私たちがお互い同士を知っているようにこれらの人物を知っていたと思われる。」(Journal of Discourses「説教集」第21巻〔英文〕P.94) 教義と聖約にはモーセ、エライヤス、エライジャ (エリヤ)、それに「ミカエルすなわちアダムより現在に至るまでの天使ら」の訪れについての記述がある。(教義と聖約128:21)



アダム



セツ



エノク



ノア



アブラハム



モーセ



エライジャ (エリヤ)

質 疑 応 答

福千年の間、サタンは縛られています、その間地上に不義な思いや行ないがあり得るのでしょうか。



ロイ・W・ドクシー

昔、神の人々は、正義の満ちあふれる社会に住みたいと望んだ。それに対して主は、そのような社会がいつか現われるだろう、しかし、悪事と憎むべき行為のため、あなたがたの時代には見いだせない、と言われた。(教義と聖約45:11-14) 末日聖徒も、聖典にあるように、キリストの再降臨と共に地上は楽園の状態を回復し、正義と平和の統治が行なわれるようになり、地

上に繁栄が見られるようになるだろう(信仰箇条第十条)、という約束の成就を待ち望んでいる。

キリストの再降臨のときに、ユダヤ人の国を攻撃する多くの軍隊が滅亡し、福音の光を拒んだ腐敗した諸国民が滅亡するだろう。(Ⅱテサロニケ1:7-9, 教義と聖約29:9, 63:34, 54, 101:23, 24) ある人々は、イエスが「世の終り」(マタイ24:3)を予言されたとき、地球の滅亡のことを言われたのだと考えている。しかし、この考えは、予言者ジョセフ・スミスが靈感によって、この句は、「悪しき者の滅亡」(ジョセフ・スミス1:4, 31)のことであると解釈したことによって退けられた。

しかし、ジョセフ・スミスは、福千年の「千年間にも地上に悪しき者は存在するだろう」と述べている。

(*Teachings of the Prophet Joseph Smith* 「予言者ジョセフ・スミスの教え」 P.268, 69 [英文]) ただ、主は悪しき者とは、主のもとに来て完全な福音を受け入れない者のことでもある、と啓示された。(教義と聖約29:17, 76:50-53, 84:49-53)

従って、道徳的な意味で悪い人々は主の来臨のときに滅ぼされるが、完全な福音を受け入れなかった立派な人々

は、福千年の間も住むことができる。

主は突然来られるが、福千年について予言された状態は、突然現われるものではない、とジョセフ・フィールディング・スミス大管長は書いている。何世紀にもわたる伝統は、福千年に入っても、人々に影響を及ぼすだろう。また人々は、自由意志を持っているので、サタンが縛られていても、自由にふるまうことができるだろう。スミス大管長は、次のような救い主の来臨に関する言葉で、この記事を閉じている。

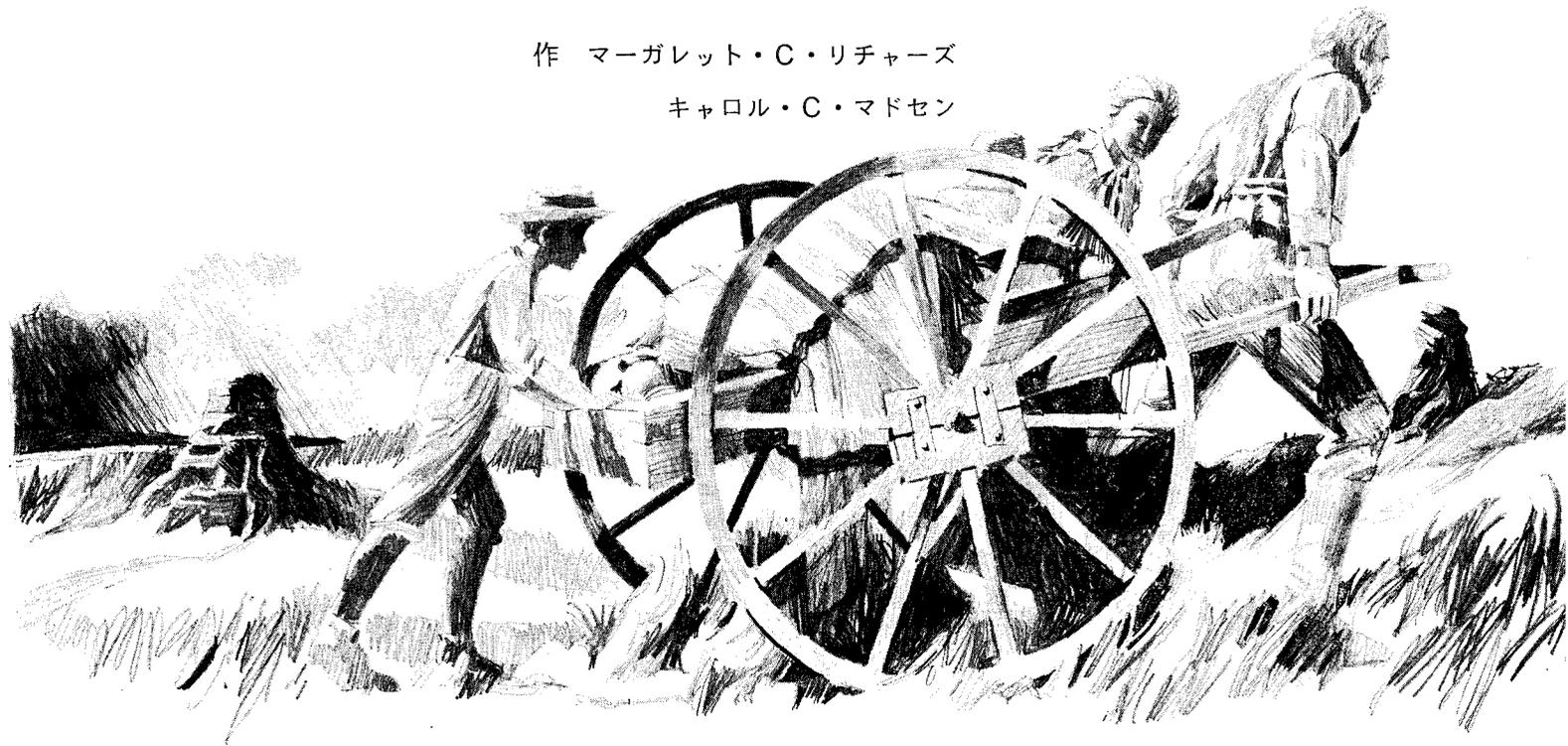
「腐敗と不道徳は除去され、そういった慣習におぼれていた人々は地の面から一掃されるだろう。その様子は、ちょうど主の十字架のときにニーファイ人が大勢滅びたときのような様であろう。従って異邦人も含めて、人類の中でも正しい、善良な人々だけが生き残ることができるだろう。」(「福千年について」インブルームメント・エラ誌 23巻 [1920年] P.113 [英文])

ロイ・W・ドクシーは、ブリガムヤング大学で「教会歴史と教会の教義」を教える教授であり、宗教教育学部の学部長である。

(329ページに続く)

すべてはよし

作 マーガレット・C・リチャーズ
キャロル・C・マドセン



「わたしはけさ、『すべてはよし』という新しい曲を作った。」

クレイトンは、1846年4月15日の日記に、このように記しています。この曲は、今日では、「恐れず来たれ聖徒」という題名で知られ、世界各地でよく歌われています。

このころ末日聖徒は、多くの人々からひどい目に合わされていました。ノーブーにいた末日聖徒の人たちは、そこにいられなくなってしまい、ウインター・クォーターズにのがれてきました。でも、そこもはなれなければならなくなりました。最初の部隊の出発です。ウイリアム・クレイトンもその中のひとりでした。クレイトンがこの日記を書いたのは、ノーブーを出発してから48日がすぎ、かれこれ480キ

ロも旅をしたころのことです。クレイトンのおくさんは、まだノーブーに住んでいました。「すべてはよし」という詩を書く前の夜のことで。クレイトンに、とてもうれしい知らせがとどきました。男の赤ちゃんが生まれたというのです。これを知ったクレイトンは、どんなにかうれしかったことでしょう。また勇気づけられたことでしょう。その知らせにはげまされて、クレイトンは「すべてはよし」という詩を書いたのです。

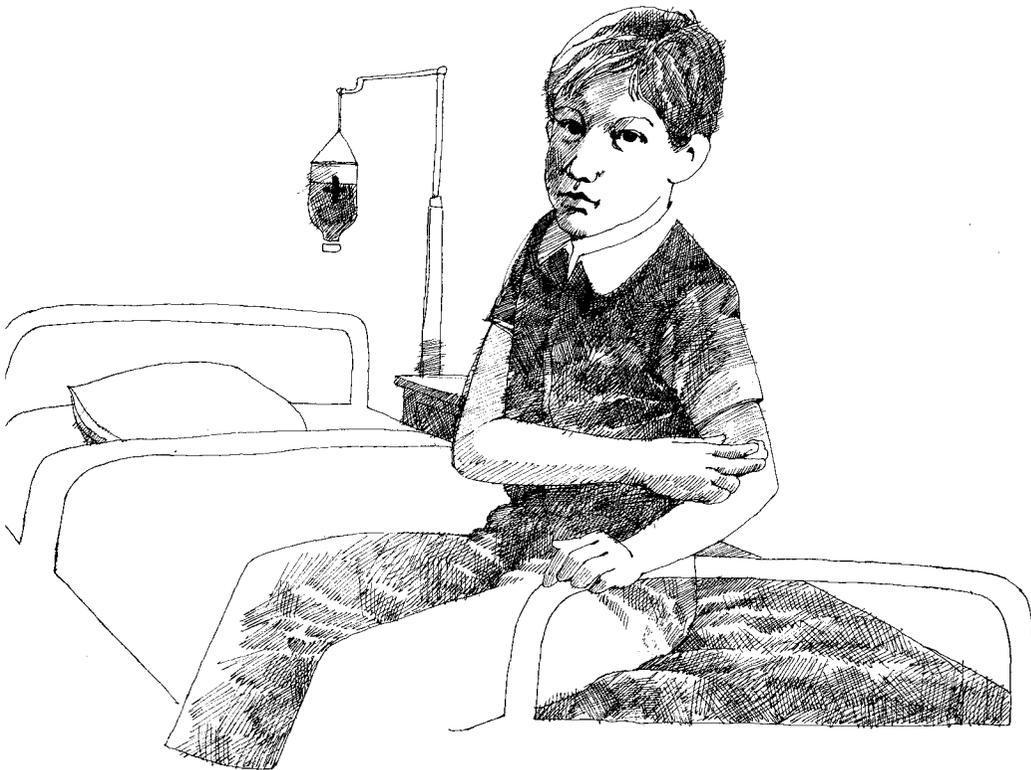
この詩は、イギリスの古い曲に合わせて作られました。J・T・ホワイトという人はその曲を少し変えて歌いやすくしました。こうして、「すべてはよし」という歌は、「聖なるたて琴」という本にのることになったのです。

この讃美歌は、苦しい旅を続けていた末日聖徒の間でよく歌われました。だれかが、「すべてはよし」を歌い始めると、つぎつぎにみんなが歌い出すといったぐあいです。そしてこの曲はつぎからつぎへと伝わっていきました。末日聖徒と同じように長い旅をしていた人たちも、よくこの歌を歌ったということです。

この讃美歌を歌ったり歌詞を読んだりしてごらんください。つかれきってくじけそうになった人たちが、この歌を歌ってどんなに勇気づけられたかがわかります。「恐れず来たれ聖徒」という讃美歌は、信仰と勇気の歌です。この讃美歌を歌うたびに、人々は、ウイリアム・クレイトンのことを思い出すことでしょう。

ほんとうのお友だち

絵 ハワード・ポスト



■ 人がその友のために自分の命をすてること、これよりも大きな愛はない。

(ヨハネ 15:13)

小さな女の子が、とても重い病気にかかりました。お医者さんは、輸血^{ゆけつ}をしないとその子は死んでしまうと言うのです。

ちょうどよいことに、その女の子のおにいさんは、同じ血液型^{けつえきがた}をしていま

した。そこでお医者さんはおにいさんに、血をわけてあげてはくれないだろうか、とたのみました。そうすれば女の子は助かるのです。おにいさんは、にこにこしながら言いました。「もちろん、いいですよ！ お願いします、先生。」

輸血がおわりました。するとおにいさんは、静かにお医者さんにこうたずねました。「ねえ、先生、ぼくはいつ死ぬの？」

それを聞いて、お医者さんははっと

しました。この少年は、妹に血をあげると妹のかわりに自分が死ぬと思っていたのです。でもおにいさんは、死ぬのが少しもこわくありませんでした。だって、大好きな妹を助けることができるのが、とてもうれしかったからです。

1. きれいな新しい血を病人の体の中に入れて力をつけること。

■ わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互^{たがい}に愛し合いなさい。

(ヨハネ 15:12)

イエスさまは、ほんとうに愛のおかたでした。天のお父さまを愛しなさい。お互いに愛し合いなさい、と人々にお教えになりました。そしてイエスさまは、ご自分もいつもそのとおりになさいました。こうしてよいお手本を示されたのです。

十字架にかけられる前の日のことです。エルサレムのある家の二階に、イエスさまは、弟子たちをお集めになりました。そして、そこでみんなと食事をなさいました。これはみんなでする最後の食事になりました。私たちは、この食事のことを最後の晩餐^{ばんさん}とよんでいます。

食事がおわると、イエスさまは水を入れたたらいを持ってきて、それからつぎつぎに弟子の足をあらいはじめたのです。おどろいた弟子のひとりが、なぜそのようなことをなさるのですか、とイエスさまにたずねました。するとイエスさまは、神様の王国では、えらい人もえらくない人もない、みんな同じなのだよ、とおこたえになりました。

それから、イエスさまは、パンをさき、さかずにぶどう液をそそがれました。それを祝福してから、ひとりひとり、弟子たちに分け与えられたのです。これが今私たちが行なっている聖餐のはじまりです。

夜になると、イエスさまは、弟子たちにとっても悲しいことをお告げになりました。もうすぐ別れなければならぬということです。イエスさまは、静かなやさしい声でこのようにおっしゃいました。

子たちよ、わたしはまだしばらく、あなたがたと一緒にいる。

わたしは、新しいいましめをあなたがたと与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

互に愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。

(ヨハネ13:33-35)

それからというもの、「わたしに従ってきなさい」というイエスさまのお言葉を、たくさんの人々が信じるようになりました。そしてお互いに愛し合うようになったのです。

■ 自分を愛するようにあなた の隣り人を愛せよ。

(マタイ 22:39)

「ヒーバー、おたんじょう日おめでとう！」そう言いながらおかあさんは、ヒーバーにとてもすてきなオーバーをさしだしました。ヒーバーは、こんなにすてきなオーバーを今まで見たことがありませんでした。ヒーバーは、そのオーバーをそっとだきしめてみました。なんてあったかいんでしょう。おかあさんがどんなに苦ろうして作ってくれたことか。ヒーバーは、そのオーバーを早く着てみたくてたまりませんでした。

ある日ヒーバーは、おかあさんにたのまれて、お使いに行きました。ふと見ると、ひとりの少年が道ばたに立っています。その子は、冬だというのに

うすいセーターしか着ていません。ふるふるふるえて、とても寒そうです。その子は、ヒーバーのあったかそうなオーバーを見て、とてもうらやましそうでした。それを見たヒーバーは、すぐにその新しいオーバーをぬぐと、その少年にあげてしまったのです。

おかあさんは、ヒーバーがまたもとの古いオーバーを着ているので、ふしぎに思いました。そこで、ヒーバーにそのわけをたずねました。

するとヒーバーは、このようにこたえました。「あのね、おかあさん。とても寒そうにしている子がいたの。だから、ぼく、その子にあの新しいオーバーをあげちゃったの。」

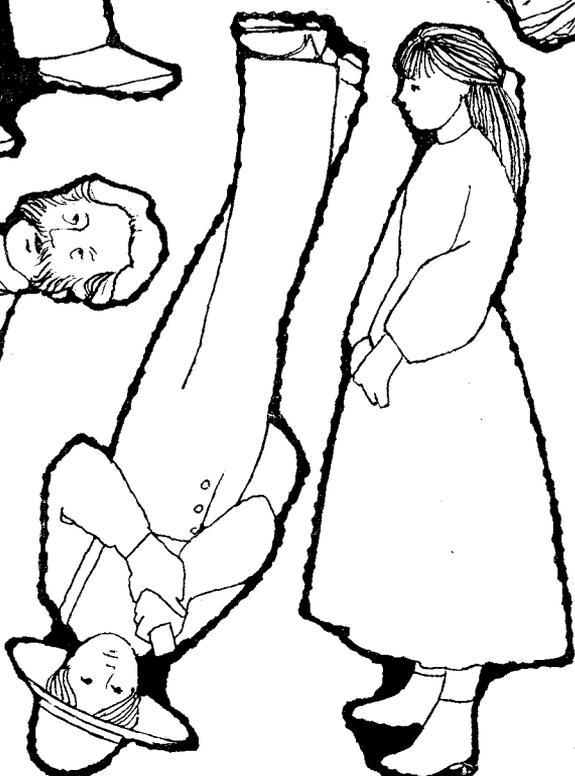
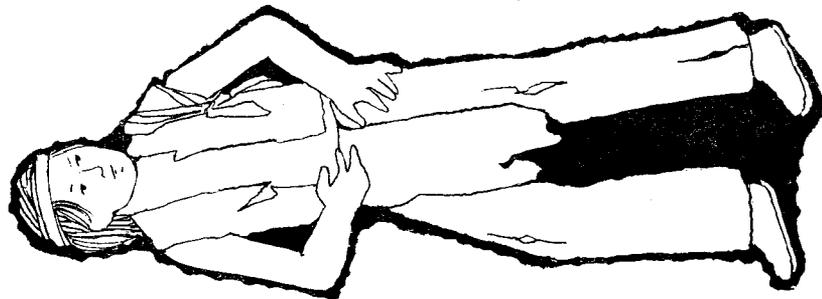
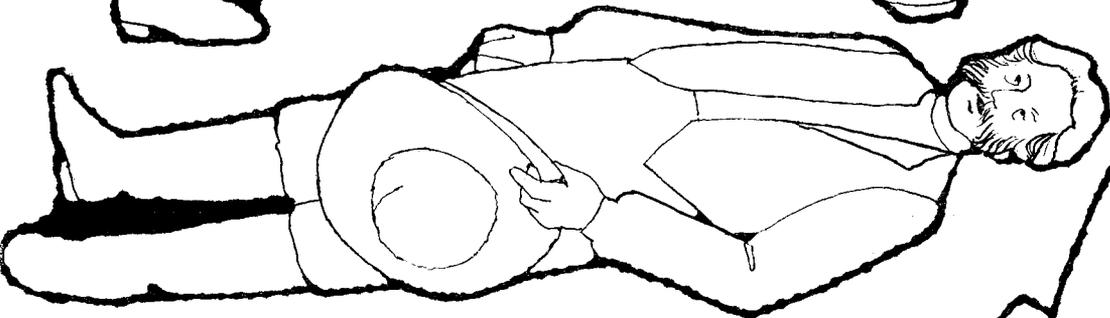
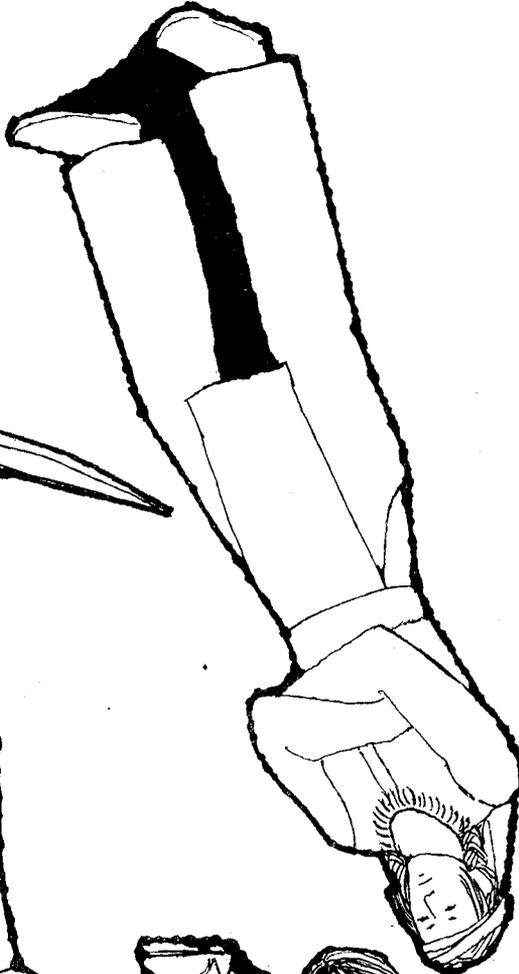
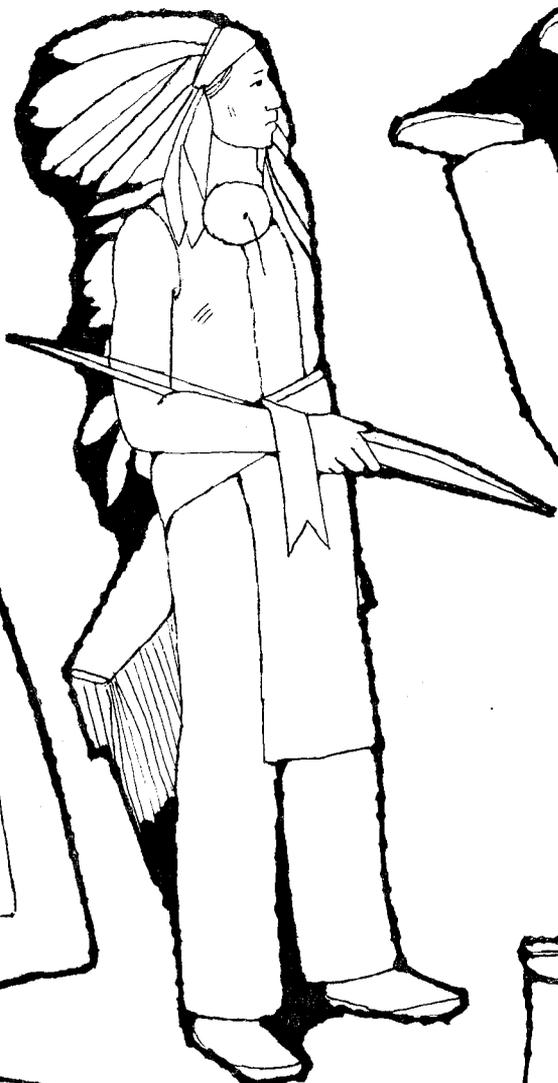
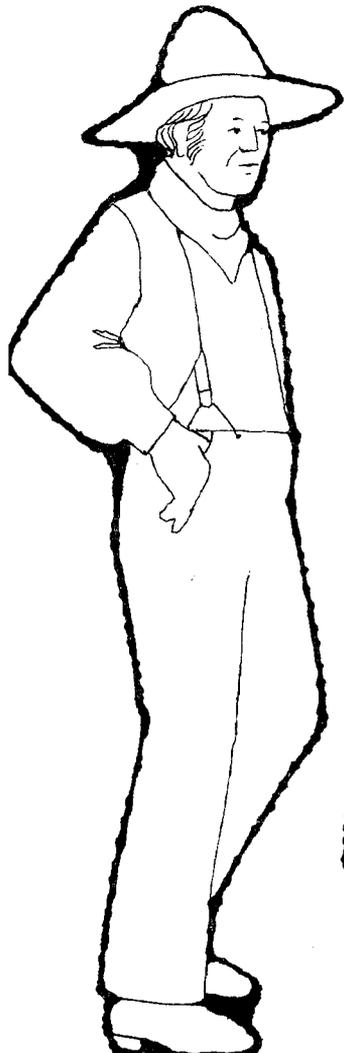
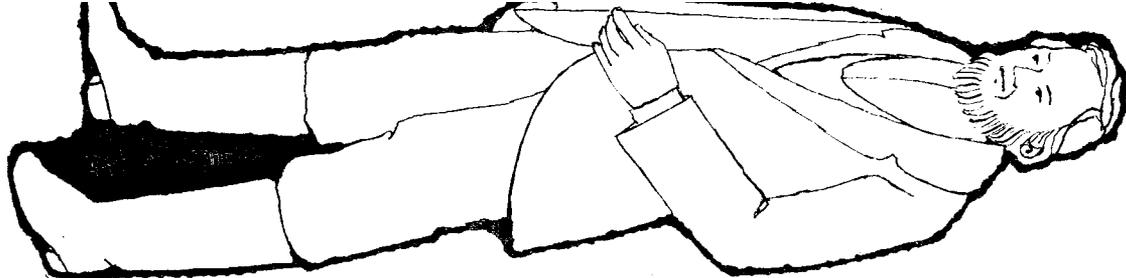
これは第7代大管長ヒーバー・J・グラントの、子どものころのお話です。



開拓者の切抜き絵

それぞれに色をぬって切りぬき、
開拓者の物語をするときに使うと
よいでしょう。

(「隊をはなれて」 P.114を参照)



同じ形をした
かたつむりはどれかな？
ウォルト・トラッグ
見つけたら色をぬってみましょう。

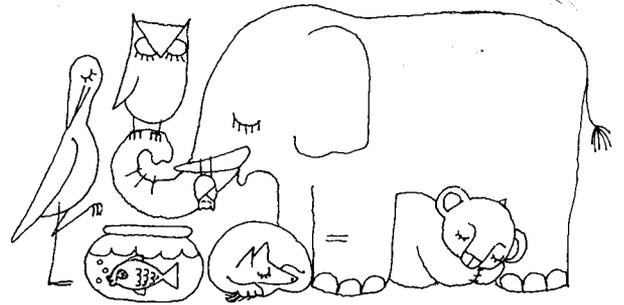


わたしはだれでしょう？

キャロル・D・ボール

下の絵を見てわたしの名まえをあててください。

1. _____ は昼間ねむります。
2. _____ は冬の間にほら穴の中でねむります。
3. _____ は目をあけたままねむります。
4. _____ は立ったままねむります。
5. _____ は片足で立ったままねむります。
6. _____ はさかさまにぶらさがってねむります。
7. _____ はくるっとまるくなってねむります。



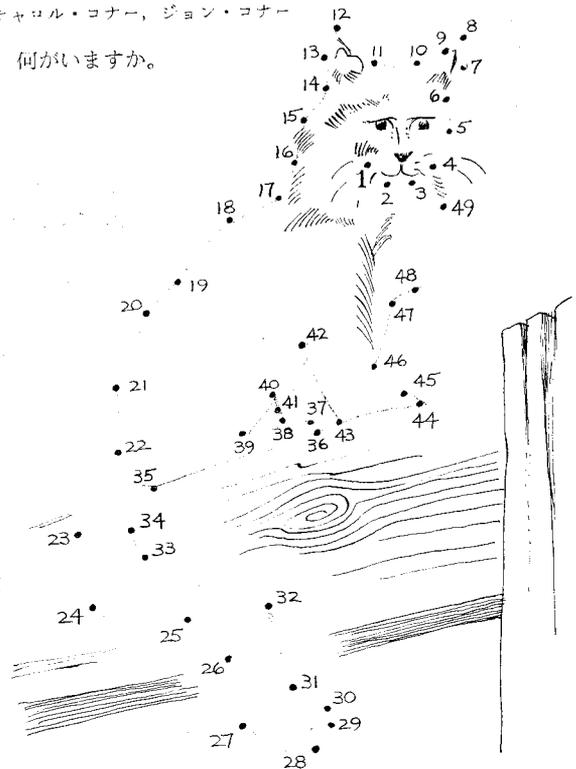
おもちゃばこ



点を結んでみましょう？

キャロル・コナー, ジョン・コナー

何がいますか。





隊から はなれて

おはなし：ルース・パー
え　：チャールズ・キルター

ティムは、牛がひくほろつきの荷車とならんでてくてく歩いていた。隊が出発して、まだ2時間ほどしかたっていなかったが、ティムの足にはもうまめができていた。

ほかの人たちもつかれているにちがいがなかった。そこには、すべてがしんせんでみんなが熱心だった旅だちのころの「みたま」とわらい声はなかった。隊は、ただ西へ西へと旅し続けた。

そんなある日、ティムの荷車は、がたとと音をたてて止まってしまった。ティムはびっくりした。ティムのおじいちゃんは、あわてて、「おっ」と声をあげた。見ると、荷車は車輪がこわれて右にかたむいていた。

おじいちゃんはまわりに集まってきた人たちを見やりなが

ら、ぼうしをぬいで、手でしらが頭をかきあげた。

「車輪が石におちあたって、どこかがいかれちゃったんだ。」おじいちゃんはこうせつめいた。そしてみんなに言った。「みなとしゅう、さきに行ってくれないかね。」

「さきに行けって？ あんととティムはどうするんだね。」ひとりがこうたずねた。

おじいちゃんはしわがれ声で言った。「だれか、ティムをつれていってくれとたすかるんだが。」

ティムはおじいちゃんのことばにびっくりして、目をまるくして思わずこうさげんだ。「ぼく、おじいちゃんといっしょじゃなきゃいやだよ。どうしてそんなことを言うの、おじいちゃん。お父さんとお母さんが死んだときから、ぼくたちずっといっしょだったじゃないか。おじいちゃんのがのこるなら、ぼくものこる。——今までもそうだったでしょ。」

おじいちゃんは、集まってきた人々を見まわして、ほこらしげにほほえんだ。「ティムはもうすぐ13になりますわい。この子がいれば百人力だ。わしら、いくらもたたないうちにおいつきますよ。」

隊の中には反対した人たちもいたが、おじいちゃんは、がんとして心を動かさなかった。おじいちゃんは、何か考えがあるらしく、みんなを見まわして言った。「わしらの牛はみなさんの牛よりもじょうぶだ。なあにすぐおいつきますよ。」

ティムとおじいちゃんは、隊の荷車がギイギイと車をきませて坂をのぼっていくのを見おくれた。ティムは何か心がうつろになっていくような気がした。ティムはおじいちゃんにかかるくかたをたたかれるまで、そこを動かなかった。おじいちゃんは言った。「おいで、ティム。しゅうりにかかろう。」

ティムはさびしさをこらえながら言った。「おじいちゃん、ぼくたちほんとうにだいじょうぶ？　ほんとうにすぐ隊においつけると思う？」

おじいちゃんは、まじめな目をして言った。「いつまで見おくらなくてもしかたがない。さあ、車なおしにかかろう。きつとうまくいくさ。」　そう言っておじいちゃんは荷車の方



へ歩いていった。ティムもそのあとについていった。

「ティム、牛のせわをしておくれ。牛に草を食わせて、いつもベストコンディションにしておいておくれ」とおじいちゃんは言った。

ティムは休むまもなく、荷車のまわりで働いた。しかし時のたつのは早く、いくら働かないうちに昼になってしまった。おじいちゃんが手をやすめたときは、もう、12時をだいぶすぎている。「このへんで食事にしよう。」おじいちゃんは言った。そしてさっさと食事をすませると、またしゅうりにとりかかった。

「ぼくが手つだえたらいいんだけど。」

「いや、おまえは、おまえが考えているよりもずっと役に立っているよ」とおじいちゃんはティムに言った。

何時間もしゅうりをして、もう少ししたら休けいしようとしていたとき、おじいちゃんのしかめっつらは、きゅうにえがおになった。「ティム、牛を小川につれて行って水を飲ませてやっておくれ。おまえが帰ってくるころには、しゅうりはおわっているよ。」おじいちゃんはつかれたこしをのびしながら言った。「牛にじゅうぶん休そくをとらせて、えさをやって、コンディションをととのえておいてな、長旅になるぞ。夕ぐれには月がのぼるだろう。わしらも夜明けには隊においつくさ。」

ティムはせかせかと牛に草を食べさせに小川の方へ歩いていった。とそのとき、ティムは心ぞうがはれつするのではないかと思うほどびっくりぎょうてんした。川やなぎのかげにインディアンがひとりうずくまっていたのだ。

ティムは声を出すこともできずに、インディアンを見つめたまま立っていた。しかし、びっくりしたのはティムだけではなく、インディアンの方も同じだった。そのインディアンの服はあちこちやぶけて、左のかたにはほうたいがぶきようにまかれていた。

「ワタシ、ランニング・エルク、ロング・ボウノムスコ」とインディアン少年はおびえながら言った。

「ぼくたちのことばがわかるの。」ティムはおどろいてたずねた。

「スコシ」ランニング・エルクはこたえた。

「どこから来たの。きみひとり？」ティムはインディアンが立ちあがろうとするのを見て、あとずさりしながらたずねた。

「ワタシ、ヒトリ。」ランニング・エルクはこたえた。

そのインディアンの少年は、3日前にかたにかなりひどいけがをしたのだった。きずはもうだいぶよくなっていたがからだは弱っていた。かれはティムと牛が近づいてくるのを見て、川やなぎのかげにかくれたのだった。

と、そのとき、おじいちゃんが大声でよんだ。「ティム、何をしているんだ。」

ティムは「今行くよ」とこたえて、インディアンの少年の方を向いて言った。「いっしょにおいでよ、その方がいいと思うよ。」

そしてティムはランニング・エルクが言ったことを、おじいちゃんに手みじかにせつめいした。おじいちゃんは、ふんふんとうなずいた。ティムの話を知ると、おじいちゃんはランニング・エルクに「おまえさん、何日食事をしていないのかね」とたずねた。

「ワタシ、モウミッカタベテナイ、ノイチゴ、スコシタベタ。」ランニング・エルクはきずがいたんでものがのみこめなかったの、食よくがなくなっていたのだった。

「もう火をおこしているひまはないが、朝めしののこりのトウモロコシパンと野牛の肉が少しある」とおじいちゃんが言った。

はじめランニング・エルクは苦しそうにつばをのみこんだが、それでもじっと手を出さずにいた。それを見ておじいちゃんが言った。「食べなさい、お若いの、おまえさんのためだ。」ランニング・エルクはぼつりぼつりと食べ始めた。

ランニング・エルクが食べているあいだに、ティムとおじいちゃんは、ほろつき馬車にまた荷物を積みこんだ。おじいちゃんは言った。「わしら、おまえさんに何もしてあげられないが、わしらといっしょに来なせえ。」

そしておじいちゃんはランニング・エルクのかたにほうたいをまいてやり、荷車のうしろにのせてやった。ティムとおじいちゃんのほろつき馬車がふたたび旅路^{たびじ}についてきたときには、もう陽はしずんでいた。隊がティムとおじいちゃんをの

こして旅だってから、もうかなりの時がたっていた。

あたりが暗くなりはじめると、おじいちゃんは牛をかり立てて、道をいそいだ。夜がきてても、ほんのしばらく牛を休ませただけで、ほとんど夜っぴて旅をつづけた。おじいちゃんが言ったとおり、丘のむこうから月がのぼり、道をてらしてくれたので、旅はよういだった。

ふたりは道が見えるかぎり歩きつづけた。そして荷車の中でねていたランニング・エルクも、ふたりといっしょに歩きはじめた。

しばらく歩いた後、おじいちゃんは荷車をとめて、やさしくこう言った。「このへんでキャンプしよう。みんな、つかれている。」

ティムは、ほんのわずかの時間、眠った。そして、おじいちゃんにゆり動かされて目をさました。

「ティム、おきなさい。旅を続けよう。もう夜が明けるよ。」

ティムは早く隊においつきたかった。しかし、ランニング・エルクが教えてくれた近道を通ることにはさんせいできなかった。

「ランニング・エルクは、この道を何マイルも近道だと言っている。この道を行けば、夕ぐれには隊に追いつけるかもしれない」とおじいちゃんはせつめいした。

1時間ほどすると、おじいちゃんはまた小休止をするようにと言った。しかしティムはあたりを見はることをおこたらなかつた。

「おじいちゃん、かれはおどろいてさげんだ。あたりには、大ぜいのインディアンが岩や木のかげにかくれているのが見えた。荷車はインディアンにかこまれていたのだ。」

ティムはおそろしきでちぢみあがった。おじいちゃんは、というとティムの前に立ちはだかって、じっとインディアンを見すえていた。と、そのとき、ランニング・エルクが荷車の前に走って行って、聞いたことのないことばで、大声でさげんだ。ティムはびっくりした。

インディアンたちは輪になったまま、しばらくだまって立っていたが、その中のせの高いインディアンが、ランニング・エルクのことばを聞いて前に出てきた。

しばらくして、ランニング・エルクは荷車の方へもどってきてせつめいした。「コレ、スイフト・イーグル。ワタシノ

オカアサンノオニイサン。インディアンタチ、ズットワタシタチノアトツイテキタ。インディアンタチ、ドウシテ、ワタシタチ、コノチカミチシッタカフシギダッタ。ハクジン、ホトンドコノミチシラナイ。」

やがてインディアンたちがティムとおじいちゃんのまわりに集まってきて、ことばやえがおで感謝をしめした。「ワタシ、ケガシテ、オナカスイテタコトイッタ。アナタタチ、タスケテクレタ、イッタ。インディアンタチ、アナタトイッショニタビシタイ。ソウスレバ、キケンナイ。」こうランニング・エルクはおじいちゃんにせつめいした。

こうして、みんないっしょに旅しはじめた。インディアンたちは、とぼとぼ歩く牛がおもしろいらしく、さかんにじょうだんをとばした。インディアンたちは、ほろつき荷車のことを、「動くテント」だと言った。そして、めずらしげに中をのぞいたり、車輪のまわるのを見たりした。

荷車がかい道に出たのは、夕がただだった。そしてもうぐらくなりかかるところ、はるかかなたに、たくさんのほろつき荷車が輪になってキャンプしている、なつかしいこうけいが目にうつった。

ティムは、キャンプの人たちがインディアンが近づいてくるのを見たら、おどろいて大こんらんになるだろうと思うと、おかしくてわらいをおさえられなかつた。キャンプの近くに来ると、インディアンたちは足をとめた。

「ワタシタチ、ココデサヨナラスル」とランニング・エルクは言った。

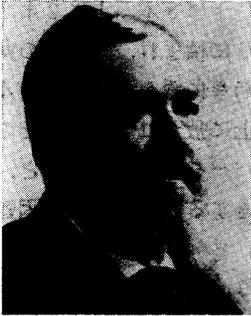
「ほんとうにありがとう、たすかりましたよ。」おじいちゃんは、あたたかいえがおでこうこたえた。

するとランニング・エルクはにっこりとして言った。「ランニング・エルク、カンシャシテル。」そしてまじめな顔になるとこうつけ加えた。「アノヒトタチニ、イウ、イイ。ワタシタチノトチ、トオル、ヨロシイ。ワタシタチ、ソレ、ユルス。」

ティムとおじいちゃんは、キャンプに入る前に、ランニング・エルクにさよならを言った。ランニング・エルクはいつかまた会いたいと言った。もう会えないかもしれない。ランニング・エルクとのつきあいはみじかかつた。しかし、ティムはこの友情がいつまでもつづくことを知っていた。

「逸話集、近代の使徒の生涯より」

*レオン・R・ハートショーン編、「逸話集、近代の使徒の生涯より」
(*Exceptional Stories from the Lives of Our Apostles*) ソ
ルトレークシティー、デゼルト出版社、1973年、許可を得て転載



マリナー・W・メルル長老

略歴

メルル長老は1823年9月25日、カナダ、ニューブランズウィック郡サックビルで、ナサン・メルル、サラ・アン・レイノルズの息子として誕生。

1853年、ソルトレークシティーに向けて、サックビルを出立。

1861年、キャッシュバレーにあるリッチモンドワード部の監督に選ばれ、17年間その任を務める。1879年、キャッシュステーク部ウィリアム・B・プレストンステーク部長の第一副ステーク部長に任命される。この時代は実業界、社会でも活躍。引続き1884年、新たに建造なったローガン神殿の神殿長に召され、1906年2月6日の死に至るまでその任にあった。さらに、1889年10月7日使徒に聖任され、十二使徒評議員となり、他界するまでその職を務めた。また1899年には、異例な事態のためキャッシュステーク部ステーク部長にも選ばれ1901年の解任まで1年半の間、十二使徒、神殿長、ステーク部長を兼任し、その上時間を取っては、多くの事業を管理した。

マリナー・ウッド・メルル長老の生涯は、福音の基礎的な真理に断固追従する一生であった。誠実、質素、公正な隣人とのつきあいは、他の何からも得られない機会を彼に与えた。公私を問わず物事に対する正直な態度は、教会の諸事に対する態度とまったく同じであった。彼は教会の召しを第一に、その他の義務を第二に考えたが、すべてを高潔、自尊の精神で行なった。

「すばらしい経験」

1855年から翌56年にかけての冬、私は前年の冬同様ソルトレークシティーの北、ノースミル・クリーク峡谷で働いた。ここでは、その冬この峡谷で働いていた間の出来事を述べよう。1856年は1月中非常に寒く、時々気温が摂氏マイナス28

度から30度にまで下がった。あるとき、寒さのためにだれもあえて出かけようとせず、私ひとりが峡谷で働いたことがあった。そのとき私は、家材の丸木を大体一度に5本ずつまとめ、引きずって運搬していた。木を伐採して積み上げる場所に運んでから、太い方の端を上、細い方の端が雪の上をひきずるようにして二連ぞりに積み上げた。5本の丸木を横に並べたのだが、積載場が非常に滑りやすくなっていて、自分ではよく気をつけたつもりが、最初の1本をそりに積んで次のを持ち上げようとしたとたん、最初に載せた丸木が滑り落ちてきた。まるで弾丸をくらったようで、私は両すねをしたたか打たれ、顔は凍った地面の上の4本の丸木越しに、のめってしまった。

転ぶときに最初の丸木を積み上げるのに使ったてこは飛んで、手の届かない所に行ってしまった。私は4本の丸木の上につぶせになり、もう1本の丸木に両足をはさまれた形になった。最大直径25センチ、長さ6メートル半もある重い赤松の丸木に足をはさまれ、私は地面にがっちり押しえつけられた。その日峡谷にいたのは私ひとりなので、自力ではい出るすべはなく、助けてくれる者もいなかった。私はユタの山中でひとり凍死していく腹を決めた。察しの通り、これまでの数々の思いが走馬灯のように胸をよぎっていく。丸木の上に倒れたとき胸と腹をしたたか打ったので、息が苦しい。そのような苦境に直面し、なすすべを失った私は主に助けを願おうと考え、熱心に祈った。しばらく主を呼び求めてから、逃れようとおれこれあがいたが、自分を押しえつけている丸木を動かすことはできず、すべては徒労に終わった。しかし、それでももがき続けている内に、心身の力は尽き果て、意識を失ってしまった。

次に私の記憶に残ることといえば、峡谷の1キロ半南を、積んだ丸木に腰かけ、牛にひかれてゆっくり進んでいたこと



である。オーバーがわきに置かれ、非常に寒いので、私は牛に声をかけて止まらせ、どうしたことかと驚き、まわりを見まわした。それから、先程積載場で丸木の下敷になったことを思い出した。だがどれだけそこにいたのかは見当もつかなかった。ただ、いつもより2時間遅く家に着いたので、2時間ほどだと推測される。荷を見ると、下に3本、上に2本、計5本の丸木がきちんと縛られてそこに積まれ、斧は上の丸木に刺さり、むちは積荷の上の私のわきに置かれ、ざぶとん代りに使っていた山羊の毛皮も荷の上に敷かれて、私はその上にすわっていた。荷をよけてオーバーを取ろうとすると、胸と両足がずきずき痛み、少し身動きするのさえ非常に困難で、とても取れたものではなかった。

それですわったままオーバーを取り、やっとの思いで両足をくるみ、再び谷を下った。牛はおとなしくゆっくり歩き、道は平らな下り坂ばかりで、楽々家にたどり着いた。家に着くと、いつもよりずっと遅いので妻が私の身を案じ、心配顔で帰りを待っていた。妻は……私に手を貸して家に入れ、暖炉のそばにすわらせて楽にさせ、牛の世話をしに行った。それから歩きまわれるようになるまで、私は何日も家に閉じこもる状態だった。

だれが私を丸木の下から救い出し、そこに木を積み、牛をつなぎ、私を乗せたのか、私は知らない。今もあのときも、だれかを見たという記憶はない。あの日、峡谷には私以外にだれもいなかったのは確かである。だから、私は主が……あのように危険な状態から私を救い出して命を助けて下さったと信じるのである。

「お父さん、私の死を どうして嘆いているのです」

メリル長老は多趣味な人だった。手がけた農業、商業、製粉、畜産、酪農その他の事業は綿密な管理と周到な経営が要求され、特に畜産や酪農は長男に大方まかせてあった。父にちなんで同じ名を持つその長男は最も頼りにされていたが、人生の盛りに亡くなってしまった。その死に、メリル長老は深い悲しみと大打撃を受けた。実の所、長男の死に心ならずも嘆き悲しんだ様子であった。

使徒メリル長老はローガン神殿を管理した。馬車でローガンと家族の住むリッチモンドをよく行き来したものである。

長男の死から間もないある日、メリル長老は馬車で家に向かいながら亡くなった息子の思い出にふけり、まわりのこと

はすっかり忘れていた。と突然、馬が道の真ん中で立ち往生したので我に返ると、驚いたことに息子がすぐわきに立っている。そしてこう言った。「お父さん、私の死をどうして嘆いているのです。私の家族のことを心配しすぎます。（彼には幼い子供が大勢いた。）私には仕事がたくさんあるので。お父さんが悲しんでいると気になります。私は家族に良

い働きをしてやる立場にあります。安心して下さい。ここには私の仕事がたくさんあって、召されなくてはならなかったのです。主が万事を良くして下さることは、お父さん、御存知でしょう。」

この経験をしてから、メリル長老は息子の死が神のみこころであったことを知って、慰めを得た。



フランクリン・デューイ・リチャーズ長老

略歴

リチャーズ長老は1821年4月2日、合衆国マサチューセッツ州リッチモンドで、フィネハーン・リチャーズ、ウエルシー・デューイの間に、9人の子供の第4子として誕生。

いとこのブリガム・ヤングとジョセフ・ヤングから福音を教えられ、1838年、17歳でバプテスマを受ける。1840年、七十人に聖任され、第1回目の伝道に召される。1848年、聖徒たちを率いてソルトレーク盆地へ。28歳の年に十二使徒定員会の席につき、1849年2月12日、ヒーバー・C・キンボールにより使徒に聖任される。1850年、英国で伝道。1854年、ヨーロッパ伝道部伝道部長に召される。1866年、英国伝道部を管理する。

14年間ウェーバー郡検認裁判所裁判官を勤める。1889年、教会歴史記録者となる。

1899年9月13日、十二使徒会長となる。

1899年12月9日、ユタ州オグデンの自宅で死去、78歳。

「メーザー兄弟と彼は完全に お互いを理解しあえた」

1855年10月4日の暁、3名の長老（フランクリン・D・リチャーズ、ウィリアム・バッジ、ウィリアム・H・キンボール）とメーザー博士とエドワード・ショーンフェルツとその他数名は、ドイツの名高いエルベ河畔に足を向けていた。その川で、メーザー博士は使徒のリチャーズ長老からバプテスマを受けた。この神権時代における東ドイツザクセン初のバプテスマであった。バプテスマの後、一行はメーザー博士の

家に向かった。長老の中でドイツ語を話せるのはウィリアム・バッジだけで、リチャーズ長老とメーザー博士のやり取りを彼が通訳した。しかしさほど会話が進まないうちに、リチャーズ長老はバッジ長老にもう通訳はいらないと言い、メーザー兄弟と彼は「完全にお互いを理解」しあえた。ショーンフェルツ兄弟は、その日は闇夜で、互いに国語を知らないふたりがいとも容易に話し合っているのに初めて気がついたとき、神聖な示しだと知り、言いようのない気持ちにとらえられたと述べている。後年メーザー博士は、水から上がったときに自分の信仰が天よりの示しによって確認されるように祈ったが、この出来事により確かに祈りが答えられたと証した。

「彼は嵐を叱責した」

聖徒と長老たちの一行を伴い英国伝道部から帰国の途中、大西洋は非常に荒れ、さかまく波が天高く砕けて、船員たちは船がこっぴみじんになりはしないかと恐れた。屈強な男たちの勇気がくじけたとき、リチャーズ長老は自分が聖なる神権を持っていることを思い出し、ちょうど救い主や当時の使徒たちがしたと同じように、その権能をもって怒り狂う自然を叱責し、静まれと命じた。彼は船内のだれにも見られない場所に引きこもり、両手を高く天に差し伸べて、烈風と怒濤を叱責し、主イエス・キリストのみ名により、猛威よ、おさまれ、静まれと命じた。すると暴風は突如としてなぎ、船客は全員無事で、船も無傷で帰ることができた。

目を覚ましていなさい

大管長 ハロルド・B・リー

1973年8月24—26日、ミュンヘン地域総大会における説教

愛する神権者の皆様、このすばらしい、心に深い感銘を与えてくれる会に集われた皆様に御あいさつを申し上げます。こう申し上げるのは、この会が、まさにヨーロッパ諸国における当教会の力を示すものだからである。事実神権は全教会のかなめであり、福音の原則はこの神権に基礎を置いているのである。

闇の力

今宵私は、予言者イザヤが受けたひとつの示現を引用して話を進めていこうと思う。その示現はこうである。「主はわたしにこう言われた、『行って、見張りとをおき、その見るところを告げさせよ。……彼が見るならば、耳を傾けてつまびらかに聞かせよ。』その時、見張りとと呼ばわって言った、『主よ、わたしがひねもすやぐらに立ち、夜もすがらわが見張所に立っていると……』。……イスラエルの神、万軍の主からわたしが聞いたところのものをあなたがたに告げる。……わたしに呼ばわる者がある、『夜回りよ、今は夜のなんどきですか、夜回りよ、今は夜のなんどきですか。夜回りよ、今は夜のなんどきですか。』夜回りは言う、『朝がきます、夜もまたきます。もしあなたが聞こうと思うならば聞きなさい、また来なさい』。(イザヤ21：6—8, 10—12) この示現は私たちに、城の中庭にいる主が敵に備えて見張りを塔に立たせ、見たものを報告させている姿を思い起こさせる。そこに立っていれば、砂煙で敵の襲来がわかるのだ。示現の中で、刻々と報告を繰り返す見張りに主はこう尋ねている。「夜回りよ、今は夜のなんどきですか、夜回りよ今は夜のなんどきですか。」見張りはこう答える。「朝がきます、夜もまたきます。もしあなたが聞こうと思うならば聞きなさい。」



この示現は、エペソ人へ書き送った使徒パウロの言葉を彷彿させる。「わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。」(エペソ6：12, 13)

神の武具

偉大な伝道者であり勇敢な信仰の擁護者であった使徒パウロは、昼の光の中では姿を隠し、夜の暗闇になると襲って来る敵の襲撃に最も弱い、武装した兵士の急所を指摘している。4カ所あげられている。腰には「真理の帯」をしめる。(腰は仮肋〔胸骨に付着していない下方五対の肋骨—訳者注〕と臀部との間の部分であることは言うまでもないが、聖書の語法では、腰は人類の生命をもたらす生殖器官を表わす。)次は「正義の胸当」。これは心臓をおおうものだが、「胸」は聖書では霊や良心の宿る、人の行ないを決定づける器官であるとされている。次の主のみ言葉を思い出されるであろう。「おおよそ、心からあふれることを、口が語るものである。」(マタイ12：34)次に守るのは足である。「平和の福音の備えを足にはき」。「足」は、人が人生の旅路でたどる道を表わす。そして最後に「救のかぶと」をかぶる。すなわち知性を身につけるのである。(エペ

ソ6：14—17参照)

以上から、闇の頭であるサタン軍勢の攻撃に対して最も弱い箇所が4つ明らかにされた。最初が徳高きこと、すなわち貞節である。これは人々にイエス・キリストの福音の真理を教えることにより守られる。次に私たちの行ないは胸当てとなり、そしてそれは、正義によって守られなければならない。そうすれば清く汚れない生活を送れるはずである。さらに私たちは平和の福音の備えを足にはく。これは生命という永遠の目標から決して目を離さないという命のもとに、この世の人生を歩むという意味である。永遠の生命とは「神とキリストの在す」ところに共に住むことである。救いのかぶとは、私たちの精神のコントロールセンターである知性、すなわち頭脳に導きを与える。そうすることによって精神は私たちの生活を制するのである。「人となりは、その心に思うそのままであるからだ。」(箴言23：7) 主は、怒ることなくして人を殺すことはないと言われた。同じように、むさぼることなくして盗みを働くことはないのである。従って、悪しき行ないの底には悪しき思いが隠れていると言える。

福音の教えは武器である

これで甲冑かっちゅうに身を固めた兵士ができたわけだが敵と戦うには武器がいる。そこがパウロの教えのもうひとつの願目である。こうかつな、目に見えない悪魔の軍勢と戦う武器は、まず第一に信仰のたて、すなわち回復された福音と、イエス・キリスト御自身がすみのかしら石として教会の基となっている生ける使徒や予言者への信仰である。次

に兵士はその手に御みたまの剣を持つ。これは兵士を導くイエス・キリストの福音の教えにほかならない。

神権者は見張り人である

さて神権者は、シオンの塔の見張り人である。あなたがたは教会のあらゆる組織を管理し、世に押し寄せる目に見える、また目に見えない危険に対して警戒の目を向けるようにその塔の上に置かれた。あなたがたは全世界の教会員の群れを守る羊飼いととして召された人々であって、その数は神権を持つ者の中であって少数である。しかしあなたがたの責任は多い。新会員を歓迎すること、真剣に真理を求めようとしている人を捜し出して宣教師に紹介すること。父親のいない家族や未亡人に

まずに、身を清く保つことにほかならない。」(ヤコブ1：27) またあなたがたは、不正がはびこることがなく、会員すべてが教会にあって活発な働きをなすように配慮しなければならない。そして正しい原則を教え、会員、指導者、それに教師に、まず自分自身を管理しその上で他の人々を管理するという方法を理解させなければならない。管理する権能を与えられている人々は、群れに対して、すなわちあなたがたが管理する支部、地方部、ワード部、ステーキ部に対して、責任を持っている。また父親として、群れの中の父親が家族をよく見守り、なおかつ信仰の守り手として教会のいろいろな責任に召されるように、絶えず抜かりなく教えなければならない。このような日の



常に思いをはせ、必要な援助の手を差し伸べること、これらはみなそうである。しかし特に大切なのは、そのような責任を果たして、なおかつ世の汚れに染まらないことである。ヤコブはこう言っている。「自らは世の汚れに染

ことをある有名な作家は次のように書いている。「神は男を与えられた。なぜなら今の時期に求められるのは、強い意志を持つ者、偉大な勇者、真の信仰を持つ者、そして備えのできた者なのだから。」

然り、この教会において主のみ業を押し進め、人々をあらゆる悪から守るにはそのような指導者が必要なのである。

私たちは業績において、必ずしも先

いるかを考えてみることである。

今教会に熱心に集っていない人々、また教会員でない人々は、ここヨーロッパ、海沿いの国々（イザヤ11：11）。そして私たちが歩を進めるあらゆる所

を否定し神に事えるなど説きすめるものは何でもみな悪魔から出たと言うことは、何の疑いもなく充分確に知ることができる。なぜならば、悪魔とその使たちまた自分から悪魔に従う者たちは、このように働いて誰一人にも決して善いことをせよとすすめないからである。」（モロナイ7：16, 17）

この神権時代の始まりもモロナイのときと同様であった。教義と聖約第50章の前文にはこうある。「現に居る長老の中広くこの世にある種々なる霊の現われを解せざる者ありしにより、この事に就きて特に伺いたる答としてこの啓示を給わる。いわゆる精霊現象の発現は会員中に珍らしからず、これを以て示現を見、また啓示を受くるなりと主張する者ありたり。」そしてその23, 24節にこれに関しての偉大な啓示が書かれていることは周知の通りである。（主が言わんとしていることを完全に理解するにはこの章全体を読む必要があるが）「人を徳に導かざるものは、神によらず暗黒なり。神によるものは光明なり。その光明を受けて神に従うこといよいよ久しき者は、その受くる光明いよいよ明らかなり。その光明いよいよ明らかとなりてついには完き屋となるべし。」

主は別の啓示で同じことを語られ、私たちにその指示に従うように言われた。これは特に教会にあって管理の権能を与えられている人に適用される。「すなわち、また聖霊によりて感ずるままに語るべきことは彼らに対する範例なり。およそ聖霊に感じたる時語るところはことごとく聖典の言となり、主の意となり、主の精神となり、主の言となり、主の声となり、世を救いに導

任者と同等であると言えないかもしれない。しかし、あなたがたも私も昔の人々に匹敵し得る点がひとつある。彼らと同じように善良で忠実な者になれるということである。

世の中には、私たちが提供するものを必要としている人々が多くいる。私たちに福音のメッセージがある。そしてそれはこの教会に委託された。主はこう述べておられる。「而して、この福音はあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民、あらゆる世の人々に宣べ伝えられん。」（教義と聖約133：37参照）教会のステーキ部や伝道部において多くの人々が改宗していることは疑いのないところである。しかし常に心しなければならないことは、バプテスマの数を伸ばすことを目指すことよりも、私たちが教会に導いた人のうち何人が活発で忠実な会員になって

て貴重な存在となっている。

誤った教義を見張る者

あなたがた神権者は、誤った教義の見張り人にならなければならない。どの神権時代にあっても、主は、真理と誤りを見分ける指針を与えることが必要だと考えられた。モルモン経の予言者が生きていた時代も同様であった。モロナイはこう語っている。「すべての人々はみな善悪の区別を弁えるためにキリストの『みたま』を授かる。さて今私は判断の方法をあなたたちに教えよう。善を行えとすすめ、またキリストを信ぜよとすすめるものはみなキリストの権能によってその賜として来るのであるから、それが神から出たこととは何の疑いもなく充分確に知ることができる。これに反して悪をせよと説きすすめ、またキリストを信ぜずこれ

く神の能力となるべし。」(教義と聖約 68: 3, 4)

教会が組織された日に主が賜わった啓示については、すでにタナー副管長が話して下さったが、この中で主な教会の指導者の口から出る啓示される事柄に心をとめるように勧告し、次のような約束を与えられた。「これらのことを為さば、地獄の門も汝に打勝たざるべし。而して、誠に主なる神は汝らの前より暗闇の力を追い払い、汝らの為と神の御名の栄光のためにもろもろの天をも震い動かさしめん。」(教義と聖約 21: 6)

指導者に従いなさい

要するに神権者の皆様、このようにあなたがたは今日、責任ある地位に召されている。私たちはあなたがたに、主が教会の指導者としてその地位に召された人に注目し、常にその言葉に聞き従うように心から説いてきたが、これも頂点に達した。主がその民に何かを語られるときは教会にメッセージを送る目的で備えられた正当な経路を通してなされるのである。それは教会幹部を通してステーキ部長、伝道部長に送られ、それからワード部、支部へ秩序正しく伝えられていく。従って主のメッセージは確実かつ明確なしるしとなり、人を誤り導くことはないのである。

私はあなたがたに心から証したい。主のみ手は今、幹部の上におかれている。教会幹部は毎週、神殿の上の方の部屋に集まり、共に祈り、主に近くいられるように願い求めてきた。私たちはその聖なる集まりにおいて常に導かれ、精神も思いもひとつになるのを覚

えている。このように心がひとつに結ばれている私たちが、主が言われたように、聖霊に感じて語るとき、その決定は真実神から靈感を受けてなされたものであると確信できる。

しかし誤解していただきたくないのは、教会幹部の口から出た言葉すべてが主のみどころだとは限らないということである。主は「聖霊に感じたとき」にその言葉が聖典となり、主のみどころ、みむねとなり、救いへと導く力となると言っておられるのである。

真理の尺度である標準聖典

もしだれでも、教会での地位に関係なく標準聖典、すなわち聖書、モルモン経、教義と聖約、高価なる真珠により実証されない教義を公言するならば、それはその人個人の意見である。新しい教義を提示する権能を与えられているのは大管長ただひとりである。大管長は、それを神よりの啓示として宣言し、十二使徒評議員会の支持を得た上で教会全体の支持を受けなければならない。また教会の標準聖典の教えと矛盾する教えを公言する者がいれば、同様の見地から、その人の語ることは誤りであり、従ってあなたがたはそれを真理として受け入れてはならないのである。

以上のことは真実だとして、あなたがたはこう尋ねるはずである。教会はこれらの新しい声明や教えが教義と合致する場合、それが聖霊に感じて語られたものであるかどうかをどのようにして判断するのだろうか。

聖霊は証する

故 J・ルーベン・クラーク・ジュニ

ア副管長は、この質問に次のように答えている。「幹部が自らの見解を述べた場合、教会は、それが聖霊に感じて語られたものか否かを教会員全体の聖霊の証によって知るであろう。そして時が来ればそれらは人々の前に現わされる。」(「教会指導者の著作や説教が聖典になるのはいつか」セミナー、インスティテュート役員への話より、ブリガム・ヤング大学、1954年7月7日〔英文〕P. 13)

同じテーマについて、ブリガム・ヤング大管長の言葉を引用しよう。「信仰の基を正しいものの上におき、ゆるぎない確信のもとに清く汚れのない生活を送り、なおかつ、与えられた神権と能力に従ってその職につける義務を遂行する人々は、すべて聖霊に満たされる。このような人を欺き、破滅へと導くことは、燃えさかる火の中で羽毛が焼けずに残ることが不可能であるのと同じように、不可能なことである。」(「説教集」〔英文〕7: 277)

これで主が再び人々に語られたときに、あなたがたが誤ったことを主張する人々からいかに守られているかが理解できたであろう。

兄弟たちよ、あなたがたの手には、主のみ名により行なう権能が委ねられているだけではない。清く汚れのない器として自らを備えるように期待されているのである。そうすればあなたがたが聖なる神権の儀式を執り行なうとき、あなたがたを通して全能の父なる神の力が現われるであろう。あなたの神権を、教会の大管長に見られてはすかしくなるようなところに追いやってはならないのである。

聖徒への勧告

大管長 ハロルド・B・リー

(1973年8月24—26日ミュンヘン地域総大会での説教)

愛する兄弟姉妹の皆様、私は偉大な国ドイツの中心地ミュンヘン市に集まった末日聖徒を前にして立てることに心よりの喜びを覚えている。この集いは通例の総大会とは異なっている。教会本部からこちらを訪れた英語を母国語とする人々以外に、ヨーロッパの8カ国以上の国々より教会員が集まっているからである。この会場には、ドイツ語、イタリア語、フランス語、スペイン語、オランダ語、英語と、少なくとも6カ国語をそれぞれ母国語とする人々が集まっている。国籍の違いはあるが、使徒パウロがガラテヤ人に書き送った言葉を私は今感じている。すなわち、「あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰によって、神の子なのである。キリストに会うバプテスマを受けたあなたがたは、皆キリストを着たのである。もはや、ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もない。あなたがたは皆キリスト・イエスにあって一つだからである。もしキリストのものであるなら、あなたがたはアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのである。」(ガラテヤ3:26—29)



教会員の一致団結

私は使徒パウロの言葉を一部使って、現在の私たちにあてはめて申し上げてみたい。私たちはもはや、イギリス人でもドイツ人でもなく、フランス人でもオランダ人でも、スペイン人でもイタリア人でもない。私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会のバプテスマを受けた会員であって皆一つなのであり、使徒パウロが述べたように、「アブラハムの子孫」なのである。従って「約束による相続人」なのである。神の子である私たちはすべて、福音を宣べ、かつその儀式を執り行なうために権威ある者により、バプテスマを受けている。

今大会は数カ国語を要する大会であるが、科学の驚異的な進歩により、開催を可能にしている。また現在のこの状態から、やがて科学が進歩して、語る人の言葉が聞く人のそれぞれの自国語になって出てくるような機械が開発される日の来ることが想像できる。このようなことが可能だとすれば、それはまさにペンテコステの日の出来事に匹敵するであろう。今日ここに集っている人々がこの世にいる間に、それが実現されたとしても、驚くにあたらないであろう。

この大会を開催するにあたって努力を惜みず、本部の兄弟たちとよく協力してくださったこの地域の指導者の方々に感謝申し上げたい。

地域総大会を開催する理由

なぜこのような地域総大会を開くのかと思う方もおいでであろう。私たちは教会員が全世界に増えているため、多くの遠隔地へ出かけて行くことを計画したのである。わずか一握りの教会員が、143年経った今日、300万を越える数に達し、世界の78カ国に住み、語る言葉は17カ国語となっている。

私たちがこれらの各地域を訪れる目的は、ソルトレークシティで開催されている総大会に出席できるよりもさらに多くの会員が共に集っていただきたいからである。

スイス神殿

幸いにも、この地域のベルン市に近いツォリコフェンに、神殿が建てられている。この神殿は言語の異なる人々が、教会本部の近くにある神殿において受けることができると同じ教えと儀式にあずかれるように、建てられ、設備されている。ロンドンにおいても同様であり、海の島々においても同様である。

奇跡的な発展をとげる教会

そのように、業は進むにちがいない。私たちはまだ先おれを見ているにすぎない。しかしながら、福音が御父の忠実な子らにまだ宣べ伝えられていない国々で扉が開かれつつあることは、非常に意義のあることである。様々の情況に置かれている友が立てられ、数年前には考えられなかったような方法で業が進展しているのを私たちは目にしている。ある事柄ができるかできないか、私たちの心に疑いが生じたとき、私は主がアブラハムとその妻サラに言われた答えを思い起こす。主はアブラハムとサラに対して、ふたりは息子を得、その息子を通して、非常に繁栄を見るであろうと言われた。アブラハムとサラは、サラが90歳で子供を生める歳ではないことを主に告げ、笑った。すると、「主はアブラハムに言われた、『なぜサラは、わたしは老人であるのに、どうして子を産むことができよう

かと言って笑ったのか。』」主の答えに注意していただきたい。「主にとって不可能なことがありますか。」(創世18:13, 14)

人が力を尽くすなら 主は道を備えられる

これは主の業であり、主が人の子らに戒めを与えるとき、戒めを守るように方法を備えておられる。私たちは



このことを常に覚えておくべきである。もし主の子らが人事を尽くすならば、主はその努力に対して報いて下さる。

主は私たちが個々の事柄にあってどのように主に近づくべきかを示しておられる。主は古代の予言者ニーファイを通じて、次のような重要な指示を与え、私たちが自らの救いを得るにあたっての大切な原則を教えられた。「だから私たちが力をつくして書き誌すのは、自分たちの子孫と兄弟たちを説得してキリストを信じさせ、神との一致を得させるためであり、それは人が最

善をつくしてはじめて、神のめぐみにより救われることを知っているからである。」(Ⅱニーファイ25:23)

これはまさしく真理である。すなわち、主は私たちに自らの救いのためにできるすべてを行なうよう期待しておられ、私たちがそれらを行なったのちはじめて、天父の慈悲深い恵みに頼ることができるのである。天父は御子を与えたもうたが、私たちは福音の律

法と儀式に従ってはじめて自らの救いを得られるのであって、自らできるすべてのことを行なわずには、救いは得られない。

今準備せよ

私たちがチャレンジを受ける機会のある間に、それらを達成する力をつけるために自身をどのように変える必要があるかを考えるのは、今のこの時である。予言者アルマはこのことに関して注目すべきことを述べている。「しかしながら、人が悔改めをすることができるように猶予が与えられたから、

この世の生涯は試しの時期となり、神に逢う用意をする時期となり、またわれわれが話す死者の復活の後にくる永遠の生命を受ける用意をなすべき時期となった。」(アルマ12:24)

少年予言者ジョセフ・スミスに天使が訪れたとき、天使は、福音が回復される目的を説明して、それは、「民が福千年の世の備えをするためである」と述べた。(History of the Church



「教会歴史」[英文] 4:537)

今日、地上における神の王国の業は、予言者ジョセフ・スミスの名をとこしえにたたえる記念碑のごとく立っている。予言者の栄えある使命は、彼がそれを全地に宣言し、伝えてきたままに、何百万という人々の心を捕えている。私たちはこのかけがえのない高価なる真珠の相続人である。すなわち、神のしもべジョセフを通じて回復されたイエス・キリストの福音を受け継いでいる。それは私たちが生きる上で、また必要なら死にあたっては助けとなる。私たちはこれによって、福千年の治世のために自らを備えるのである。これを決して忘れてはならない。神に逢う用意をしなくてはならぬ時期は、今で

ある。まだ、その時は過ぎ去っていない。

道を踏みはずしてはならない

私は伝道していたとき、伝道部長から、予言者ジョセフ・スミスが亡くなったとき、多くの人々が霊的に彼と共に死んだと聞いたことがある。私はこの言葉に強く心を打たれた。

自ら様々な名を名乗り、権威を継承

していると偽っている宗派がある。ある者はこの地方の国々でその活動を展開し、あなたがたを迷わそうとしている。

あなたがたがそれから自らを守る方法がひとつある。それは次の主の言葉を絶えず心に留めておくことである。

「またわれ汝らに告ぐおよそ誰か権威ある者より聖職に按手任命され、またその者の権威を有てることと、教会の長たる者たちより正式の按手聖任を受けたることとが教会員の知る所にあざれば、何人といえどもわが福音を宣べんために出で行くこと、または教会を創立することを許されざるべし。」

(教義と聖約42:11)

あなたがたをまどわそうとして来る

者に、この点で答えられるかどうか尋ねてごらんさい。

教会の第三代大管長、ジョン・テイラー大管長は、教会員に対して声明を出したが、その中で彼はブリガム・ヤングについて触れたのち、注目すべき事柄を述べている。「王国の鍵は今もここにある。教会と共にある。主が地上に回復された聖なる神権と使徒職は主が建てられた教会を導き、治め、儀式を執行するため、今も残っている。」

(Messages of the First Presidency, 「大管長会メッセージ」 ジェームズ・R・クラーク編[英文] 2:29)

従って私はあなたがた忠実な聖徒に申し上げる。主は羊飼いなしにあなたがたを放置されることはない。羊飼いはここにいて主の業を導いている。そして主は、羊飼いを通して導く事柄に指示と導きの手を与えておられることは明らかである。主は主の教会にあって責任ある地位についている人々にはっきりと理解できるような方法で御自身を示しておられる。

証

兄弟姉妹の皆さん、私は皆様から教会の大管長という高い地位に支持された者として、心よりへりくだり、真心から申し上げます。私は末日聖徒イエス・キリスト教会が地上における神の王国であることを知っている。神の神権はここにある。そして、天使たちが遣わされて、地のあらゆる忠実な者に救いの儀式が執行されるべく、権能が回復され、教会が回復されて以来、神権は継承されてきた。神権には救いの鍵がある。私たちが主に対して果たすべき責任はこれである。すなわち、隣人、

友人にあらゆるすべを尽くして福音を
宣べ伝えることである。そうすること
によって、やがて時至らば、水が深い
大海に満ちるように、真理が地に満

ち、いにしえの予言が成就されたこと
を悟るであろう。私はこれらのことを
証し、この大いなる大会を始めるにあ
たり、あなたがたに祝福を与える。主

イエス・キリストのみ名により申し上
げる。アーメン。

勇気を出そうではないか

十二使徒評議員会会員

ゴードン・B・ヒンクレー

(1973年8月24—26日、ミュンヘン地域総大会における説教)

愛する兄弟姉妹、私の願いはただひ
とつ、あなたがたの信仰を増し加え、
あなたがたの証を強くすることであ
る。そのために私は聖霊の導きを求め
ている。

これまでに私はヨーロッパで何度も
美しい光景を目にしてきた。しかし、
この末日聖徒の会衆に匹敵する美しい
ものを見たことはないと思っている。
あなたがたの顔は、福音のみたまで輝
いている。あなたがたの前にいると、
人は証の力を感じるのだらう。

今日あなたがたは、お互いの信仰を
感じて胸に暖かいものを覚えており、
お互いの兄弟愛の力を感じている。し
かし、いつもそう感じているわけでは
ない。ルッシン、ディディエア、ブッ
シェ各兄弟の話からもわかるように、
大部分の方は、困難な改宗の苦しみを
耐えてこの教会に加入した人々であ
る。あなたがたはすでに、さびしい思
いをし、心痛を経験している。この午
後ここを出て家に帰ると、また職場や



小さい支部に、さらにあなたがたを嘲
笑しがちな仲間の所にもどると、あな
たがたのうち多くの人が再び、厳しい
孤独感を味わうことだらう。

指導者であることの代価

教会員であるあなたがたは、隠れる
ことのできない、山の上にある町のよ
うな存在になっている。あなたがたが
好むと好まざるとにかかわらず、あな
たがたは他から分けられている。真理
を受け入れた者であり、自動的に責任
を引き受けているのである。証は個人

的なものであり、証に伴う責任も個人
的なものである。

ビクトリア女王は言った、「王冠を
いただく頭には、不安がつきまとう。」
これは、歴史上キリストに仕える者の
生涯についても言えることであつた。

この神権時代に主がこの教会のこと
を、「全地の面に於ける唯一の真にし
て生命ある……教会」（教義と聖約1
：30）と宣言されて以来、私たちはさ
びしい思いを覚える地位におかれたの
である。これは、しりごみすることの
できない指導者の地位、大胆に勇気も
って、しかも妥協することなく受け
入れなければならない指導者の地位に
伴う孤独である。福音を実践し、その
精神の中に生活するこの教会の真実の
会員は、人々と接触するとき、幾分か
このさびしさを感じている。しかし、
人はひとたび証を得れば、証をもって
生きるべきである。良心に従って生活
しなければならない。神と共に生きる
のである。

孤 独

これは宣言されて以来そうであった。指導者の支払う代価は孤独である。良心に忠実に従うには孤独という代価を払わなければならない。証を得る代価も孤独である。

歴史上、人類の贖い主であり、世の救い主であるイエスが、罪を贖うために十字架にかかっている姿ほど孤独な姿はない。

1年前に私たちは、リー大管長と共にエルサレムで、ゲッセマネの園に立っていた。実際に目撃するのと比べれば、はるかに弱いものであるとはいえ、私たちはそこでイエスが味わわれた恐ろしい苦闘、あまりにも苛酷なものであったために、ひとりで魂のあえぎを覚え、すべての毛穴から血をふき出したほどの苦闘を、感じとることができた。

私たちはまた想像の上で、信任を受け高い地位に召されながら、主を売った人の裏切りを目撃した。不義の人々が、神の御子に荒々しい手をかけるのを見た。続いて、苦しみの中から「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」（マタイ27:46）と呼びながら、十字架にかかっている孤独なイエスの姿が心に浮かんだ。

信仰上の圧制をしいていた暴君がヨーロッパ全土をじゅうりんしていたとき、これに抵抗して立ち上がる人が、ここかしこに現われた。宗教改革者たちは、神の靈感を受けて、もうひとりのみ使いが現われるときのために、基礎を築いた人々であると私は信じている。このもうひとりのみ使いは、中空を飛び、「地に住む者、すなわち、あ

らゆる国民、部族、国語、民族に宣傳するために、永遠の福音をたずさえて」きた。（黙示14:6）マルチン・ルターが勇敢に、しかし孤独の中に95カ条を宣言したのは、ドイツの地であった。ルターとその仲間、および後継者がその意志を貫き通したのは、歴史に残る事件であった。光明に満ちた時代を出現させるために道を切り開いていった彼らは、群衆の嘲笑のまっただ中であって、孤独に甘んじたのであった。

この神権時代の予言者も、同様に孤独な存在であった。森から出てきた14歳の少年は、憎まれ、迫害された。予言者ジョセフがほんの一握りの忠実な信徒と共に、孤独な道を歩む姿ほど、悲しみをさそう光景はほかにないだろう。彼は、孤独のまま命を捧げた。真理を証するために。

私たちの愛するハロルド・B・リー

大管長を含めてジョセフ・スミスの後を継いだ人は皆、尊い神聖な職責を果たしていくに当たって相当の孤独を味わっている。しかし、味わったのは彼らだけではない。あなたがたの中にも、バプテスマの水に入って新しい生活に移るとき、改宗者として古い交遊を犠牲にし、さびしい思いをした人が多くいるだろう。

ある改宗者の忠誠

私は、40年前ロンドンで伝道していたときに知ったある友だちのことを考えている。この人はある夜、雨をつけて私たちの宿舎を訪ねてきて、ドアをノックした。

その人は言った、「だれかに話さずにはおれないのです。私は全くひとりぼっちになりました。」

「どうしたのですか。」

「教会に入ったとき、父親は、家を



出て行け、二度と帰ってくるな、と言いました。何か月かたつと、スポーツのクラブから除名されました。また先月、社長は私がこの教会の会員であることを理由に、私を解雇しました。そして昨夜、愛する女の子が、モルモン教徒であるあなたとは絶対結婚しないわ、と言う始末なのです。」

そこで私は言った。「教会員であることがそんなに犠牲を強いているのなら、教会を去って、お父さんの家に、クラブに、あなたにとって大切な職場に、もどっていったらどうですか。そして愛していると思っている女の子と結婚したらどうですか。」

その人は、しばらく黙っていた。長い時間に思えた。それから頭をかかえてすすり泣き始めた。非常に悲しそうに、心臓がはり裂けるのではないかと思われるくらい泣き続けた。それがやっとおさまると、涙を浮かべながら顔をあげて言った。「教会を去ることはできません。この教会が真実であることを知っています。もし命を失うことになっても、教会を捨てることはできません。」そう言って、ぬれた帽子を取ると、雨の降りしき中へ出て行った。たったひとりで、ふるえおのきながら、しかし、固い決心を胸に。私は彼を見ていて、良心に従うときにあるいは信仰を守りとおすときに乗り越えなければならない孤独を見せつけられた。また同時に人の証の持つ力を示されたような気がする。

あなたの証に忠実でありなさい

今日ここにいる皆様に、特に若い男女の皆様に申し上げたい。あなたがたは、末日聖徒イエス・キリスト教会の

会員として、いつか非常な孤独を経験するときに来るかも知れない。これから将来、来る日も来る日も、何年たつても、あなたがたは、世の中で自分が極めて分の悪い少数派に属することがわかるだろう。

たとえば、周囲の人が皆貞潔を軽べつしているときに貞潔を守るのは容易ではない。

周囲の人が皆まじめな生き方を軽べつしているときに、まじめに穏やかに生きていくことはむずかしい。

まわりの人が便宜主義に流れていくときに、それに流されないで正直な自己を全うすることは困難である。

イエス・キリストを嘲笑し、けなし、こきおろす人に、主イエス・キリストの神性を証するのはやさしいことではない。

確かに孤独を感じるだろう。しかし信仰を受け入れたあなたがたは、しっかり自分で歩いていかなければならない。自分を受け入れた原則に従って、確信に沿って、また証をもって生きていかなければならない。そうしなければ、みじめなことになるだろう。恐ろしくみじめな状態に陥ることだろう。証をもって生きていくなら、苦痛や失意、心痛、それに胸が張り裂けるほどの悲しみがあっても、心には平安と慰めがあり、力強いものを覚えるだろう。

正義は平安をもたらす

愛する兄弟姉妹、勇気を出そうではないか。パウロはテモテにこう書いている。「というのは、神が私たちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。だから、あなたは、わたしたちの主のあかしを

すること……を決して恥ずかしく思っ
てはならない。」(Ⅱテモテ1:7, 8)

恥ずかしく思わない人、勇敢に語る人に、主は次のように言われた、「われ汝らの前に先立ちて行くべければなり。われは汝らの右に在り、また左に在らん。わが『みたま』は汝らの心の中に在り、またわが天使らは汝らを囲みて懐き支えん。」(教義と聖約 84:88)

これは約束である。私はこの約束を信じている。また果たされることを知っている。私は今日この聖句が真実であることを、あなたがたに証したい。愛する兄弟姉妹、あなたがたは、世の暗やみを脱し、永遠の福音という光明の中に入った人たちであり、誓約の民、この世代の最大のホープなのである。神があなたがたを祝福されるように。

ひとりであっても恐れずに歩むことができるように、また原則に沿って生活する人に与えられる平安が理解できるように、神の祝福があなたがたにあるよう祈る。この平安は、「人知ではとうてい測り知ることのできない……平安」である。(ピリピ4:7)

永遠の父なる神が生きておられることと、イエスがキリストであり、私たちの救い主であり、贖い主であることを、あなたがたに証する。このみ業が御二方のみ業であり、今日私たちを導く生ける予言者がいることを証する。あなたがたが、これから生活していくときに、すべての祝福が頭上に与えられるように。またひとりで歩むときも、真理の中を信仰をもって前進できるように。イエス・キリストのみ名によって祈る。アーメン。



モーセ



イザヤ



ダニエル



アブラハム



ヤコブ

うたのである。

しかし、長い間使われていなかった門はたわみ、ちょうつがいはいさび、門は雑草でおおわれていた。人々が主を否み、主を汚し、主との交わりを断っている間に、靈的な荒廃が広がり、天の幕は閉じられてしまったのである。これらの時代に神と交わることは非常にまれなことであった。何世紀にもわたり荒野の中で孤立した予言者たちが声をあげたが、人々は耳を傾けなかった。しかし、ある日、新しい星が輝き出で、全き光が世にさし込んだのである。天の光に、星も月も太陽も頭を垂れ、闇の四隅も照らし出された。神の御子イエス・キリストが幕を開け、天地は再び通じた。しかし、その光が消えると、闇は再び光に貫かれることなく、諸天は閉じられてしまった。こうして暗黒時代に突入したのである。この靈的な深い闇は、ニーファイ人の歴史に見られる物理的な闇とは異なっていた。「この暗黒の霧のために光があることができず、ろうそくもたいまつも火をつけることができず、よくよく乾かした薪でも火をつけることができなかつたから光が少しもなかつた。」

(Ⅲニーファイ8:21)

靈的な暗黒の霧は貫き通すことができず、このため何世紀もの間、一本のろうそくのかすかな光もなく、暗黒の時代を経たのである。

回 復

新しい日のきざしが見えた。ひとりの人が神の導きを求め、心を込めて祈りを捧げた。隠れた寂しい場所が明るみに出され、ひざが折りがかめられ、心が低くされ、願いが口をついて出された。そして真昼の太陽よりも輝く光が世を照らした。最早、幕は再び閉じられることなく、この光は消えることがなかつた。比類なき信仰を持った若者が、鉄の垣でおおわれた天の夢を覚まし、交わりを再び確立したのである。天は地にほほずりし、光は闇を払った。そして、神は「そのしもべにその隠れたことを示す」ため、再び人に

語られた。新しい予言者ジョセフ・スミスが立てられた。そして神はジョセフを通して、決して滅びることがなくまた他の手に渡されることもない、としえに永らえる王国を建てたもうたのである。

この王国が永遠に存続し、啓示によってそれが確立したことは絶対不変の事実である。最早、太陽は沈むことがなく、すべての人が創造主と交わる資格を失うような事態は決して起こらない。神がその姿を地上の子らより全く隠されるときはもうないのである。啓示は今より存続し、予言者は継承され、主の隠れたことは、時にかなって明らかにされてゆくであろう。

現在の予言者を受け入れる

現在、ある宗派の多くは、アブラハム、モーセ、パウロを信じているが、今日の予言者、彼らと同時代の人を予言者として信じることを拒んでいる。けれどもいにしえの人々も同じ誤りを犯していたのである。彼らも過去の時代の予言者は受け入れることができたが、同時代の人である予言者ははりつけにしたりした。

教会においても多く的人是は、過去の予言者の墓は飾り立てるが、現在の予言者には心の中で石を投げつけているようである。

ウィルフォード・ウッドラフ大管長は語っている。「ジョセフ・スミスは生涯のほとんど毎日、『主かくの如く言う』と言って、この業の礎を置いた。しかし、ある人々は必ずしも『主かくの如く言う』と言う必要がないと考え、聖霊の力により人々を導いてきた。……いずれにしても主は私たちに啓示を与えておられ、必要な限り啓示を与えられるだろう。」

ウッドラフ大管長は自身の受けた啓示に及んで、次にこのように述べている。「最近私は啓示を受けたが、それは私にとって非常に大切な啓示であった。なぜなら次のような啓示だったからである。

主は示現と啓示によって私に示した

もうた……

主ははっきりと何をなすべきかを語って来られたが、……このときも天の神は私がなすべきことをなすよう命じられた……私は主のみ前に行き、書けと言われたことを書き留めた。」(デゼレトニュース、24:4 [1891年11月7日])

啓示は静寂のうちにもたらされる

現代の多くの人々は、啓示というのはシナイ山の示現のように、稲光と雷鳴を伴った劇的な形で与えられるものだと考えている。彼らは、らい病からいやされることを求めたスリヤ王の軍勢の長ナアマンと変わるところがない。ナアマンは、予言者エリシャが彼の推薦の手紙、富、地位、名声、馬車を連らねた従者を無視したのを見て、啞然とした。予言者エリシャはしもべをつかわしてナアマンに「ヨルダンへ行って七たび身を洗いなさい」(列王下5:10)という簡単なメッセージを伝えた。すると、この尊大な役人は怒り、不平をもらした。「わたしは、彼がきつとわたしのもとに出てきて立ち、その神、主の名を呼んで、その箇所の上に手を動かして、らい病をいやすのだろうと思った。」(列王下5:11)しかし劇的な出来事は起こらなかった。はなばなしの出来事、虚栄、虚飾、魔術のような出来事は起こらなかった。そして、ナアマンは頼ろうとしなかつた。ナアマンは信じなかつた。彼は自分で思い込んでいた方法が邪魔になって、神からの示しを受け入れようとしなかつたのである。

今日でも、ナアマンのように、畏敬の念を起こさせるような出来事と共にもたらされないと、啓示を受け入れない人々が多くいる。多くの人々は、モーセの時代、ジョセフの時代、そして現在に至るまで、数限りない啓示を啓示として受け入れるのに抵抗を感じている。これらは、天から露がくだり、夜明けが夜の闇を払うように、予言者の心に深くもたらされた啓示である。

燃えるしば、煙をはく山々、四つ足

の生き物が入った布、クモラの丘、カートランドでの出来事は、事実であった。だが、これらは例外である。おびただしい数の啓示が、モーセに、ジョセフに、今日の予言者に与えられている。それは、驚くような方法ではなく、心の奥底に感じるものであって、はなばなし、魔術のような、劇的な出来事を通してもたらされたのではなかった。

常に劇的な出来事を期待していると、絶えず啓示されている事柄を、全く見失ってしまうのである。

木曜日に神殿では集会が持たれるが、そこでは神聖な祈りと断食を捧げたのち、数々の重要な決定が下される。新しい伝道部、ステーキ部が組織され、新しい方針、方式が検討され、新しい神殿の建築が承認され、空席となった重要な指導者の職をうめるべく新役員が決定される。一般に情報というものは人知による単なる推測と見なされたり、考えられることがある。しかし、互いの心をひとつにしてそこに座っている人々は、予言者の厳粛な祈りとこの神の人の証に耳を傾けるのである。彼らは予言者の熟慮を見、予言者の決断と声明に知恵を見ている。まさしく彼は予言者なのである。予言者が「主は喜んでおられる」「天父は言われた」という神聖な言葉で、新しく重要な進展に関して締めくくるのを聞くとき、彼らはまさしくその通りであることを知るのである。

絶えざる啓示

回復の予言者ジョセフ・スミスから現代の予言者ハロルド・B・リー大管長に至るまで、天との交通の道はくずれず、権威は存続してきている。鋭く輝く光は衰えていない。主の声は、とぎれることのない喜ばしい響きであり、甘い旋律であり、雷鳴のような力を持っている。150年近くを経た現在も、いささかの妨げもよどみもない。

予言者を通じてある変更がなされるとき、そこには穏やかではあるがはっきりとした確信があり、まことの信者

の心には天よりの平安がもたらされ、確かなことがわかる。偉大にして信仰厚い人々が大いなる権威の衣をまとうべく立てられている。そして彼らのたなごころに天の鍵が与えられるや、彼らの口をついて、権威ある声が発せられるのである。

その望みが利己心、排他心、うぬぼれに走らない限り、人は孤立しない。すべて義を求める人は、自らの限られた王国にあって靈感を受ける。主は今日たしかに予言者たちを召し、その隠れたことを啓示しておられる。それは昨日も今日も明日も同じである。主はその方法をとっておられる。「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされない。」

予言者、リー大管長

約1年前、この神権時代の第10代の大管長、予言者は96年間の生涯を終えて、時のはじめよりの数多くの予言者たちと共に天の法廷にその名を連ねることとなった。そして、地上における

主の王国の予言者の席に、神の選ばれた予言者、第11代大管長として、ハロルド・B・リー大管長が置かれた。10月の総大会の聖会には多くの教員が出席し、東西南北を問わず世界中の全末日聖徒を代表する人々が、公式の支持を表明した。そして、この予言者が地上に生を受ける前に主より与えられた、この任命と召しに同意したのである。

かくして私たちは、この偉大な予言者である指導者を通じて神に仕える喜びと特権を得ると共に、神聖な義務を負ったのである。

私たちは数々の国語で、「感謝を神に捧げん、予言者の導き」と歌っている。

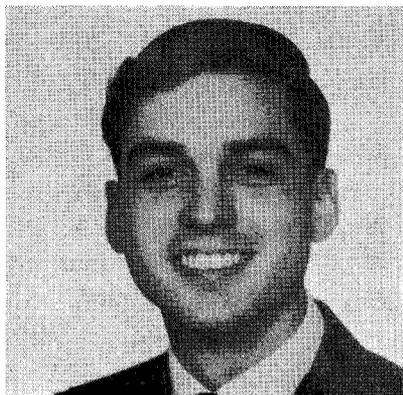
私はハロルド・B・リー大管長が、愛に満ちた聖なる神と、神と共に生きてまします愛子イエス・キリストの代弁者として召され、承認されたことを証申し上げる。私はこのことを心から私たちの救い主イエス・キリストのみ名により証申し上げる。アーメン。



質 疑 応 答

(308ページからの続き)

エドワード・パートリッジが監督に召されてから、ほかにも監督になるよう召された人々がありました。主はエドワード・パートリッジを管理監督に召されたのでしょうか。



D・マイケル・クイン

教会歴史部
先任歴史係補助

この答えは、教会歴史を学ぶ者にとっては明白であろう。教会歴史を学んだ人なら、すぐに、はいそうです、エドワード・パートリッジは教会の最初の管理監督でした、と答えるだろう。教会歴史は、彼が1831年に管理監督になって、1840年に死ぬまでその職にあったと告げている。またニューエル・K・ホイットニーが次の管理監督になったことが記されている。

しかし、教会の歴史と発展を記した文書をひもといてみると、エドワード・パートリッジは実際には管理監督ではなかったことがわかる。事実、管理監督の職は、1847年になるまで設けられていない。最終的に教会の管理定員

会となった管理監督の職は、地区ごとに設けられた職である監督長のあとを継いだものであった。

監督長という職は、初期の教会の中心地が、オハイオ州カートランドとミズーリ州インデペンデンスの2カ所にあったために設けられたのであった。1831年に、両方の会衆はそれぞれ千人以上に達していた。

オハイオとミズーリの両州に教会が組織されることによって、ふたつの中心地の考えがますますかためられた。エドワード・パートリッジは、1831年2月4日監督に任命され(教義と聖約41:9)、その年にミズーリ州へ移ってその地域の聖徒を管理している。

1831年12月31日に、ニューエル・K・ホイットニーが、カートランドを管理する監督に聖任された。1834年に、ミズーリとカートランドで、それぞれ管理会と高等評議員会の下に教会のふたつの中心地が組織された。

ふたりの監督が管理者、被管理者としての関係にあったという記録はない。両地域の指導者が集まって会合を開いたときは、ふたりはシオンの監督とカートランドの監督と呼ばれるか、ふたりともただ監督と記されただけであった。

ミズーリ州で困難な時代を過ごした後、聖徒たちはイリノイ州へ移動した。イリノイ州で監督の職を占める人が急にふえた。ノーブーの各ワード部と周辺のステーキ部で、監督が次々と召されたのである。パートリッジ監督が亡くなったとき、9人の監督がいた。

1841年1月19日にジョセフ・スミスに与えられた啓示で、ジョージ・ミラ

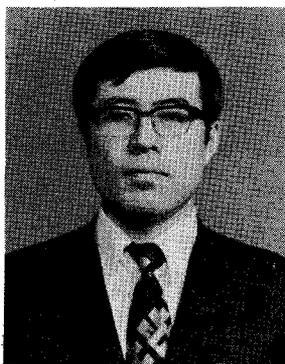
ーが、「わが僕エドワード・パートリッジに為した如く、監督の職」に任命された。(教義と聖約124:21)これをみると、何人かの監督がいて、別にふたりの監督長が指示されたとおり働くという型が続いていたようにみえる。

監督長の役職が継続することを示すと同時に、この啓示は、あとの方で管理監督の職を定めている。「また、われ汝らに告ぐ、われビンソン・ナイト、サミュエル・H・スミスおよびシャドラク・ラウンディ(もし彼これを受くる意あらば)を汝らに与え監督会を管理せしむ。」(教義と聖約124:141)

従って、この神権時代における最初の管理監督は、ビンソン・ナイトであったとしなければならない。教会の歴史記録者オルソン・プラットもジョン・テイラー大管長もそう解釈している。しかし、ナイト監督は、今日私たちが理解している管理監督会の機能を果たしたのではなかった。三代目の監督長として働いたのであった。

ナイト監督が亡くなって、聖徒たちがノーブーを去ってから、ニューエル・K・ホイットニーが管理監督に支持された。1847年から彼は他の監督を管理し、教会の俗世にかかわる事務を取り扱うようになって、管理監督としての機能を果たし始めた。ホイットニーは副監督なしに務めたが、ブリガム・ヤングとヒーバー・C・キンボールが顧問として助けている。

ホイットニー監督のあとを継いだ管理監督はいずれも副監督を召し、それ以来管理監督会は今日と同じような機能を果たしてきたのである。



系図探究への招待

保 阪 三 郎

八王子支部

大祭司グループリーダー

系図探究は私たち末日聖徒にとって欠くことができない大切なことです。

なぜ、系図を調べるか、相当な記録と資料を集め、多額のお金を使い、探究のために相当の時間を使う宗教上の意味は何か、それは家族関係が神聖なものであり、キリストが生ける神であり、救い主であるとする末日聖徒の信条の中に答えがあります。

さて、わが国の場合、それらの先祖の探究のためには、封建社会と家族制度の影響で、家系図がある程度存在していますが、これとて、限られた人のものです。

私たちが今すぐ系図探究をするためには、その正確性からして「戸籍」に依存しています。

戸籍は、特定の夫婦、親子の出生から死亡に至るまでの身分関係の変動を統一的に明らかにするだけでなく、その有する索引的機能を通じてあらゆる身分関係のつながりをたどることができます。それ故に行政上また社会生活上利用されるゆえんです。

ところで、戸籍にもおいたちがあります。すなわち、わが戸籍制度は、明治前にあっては遠く大宝律令、養老律令となって整備され、その主たる目的は課税、浮浪者の取締、邪教禁圧、徴兵などの行政目的達成にあって、戸口調査（動態把握）を目的にしたものであったといわれています。

明治維新後は、現行戸籍の原型で明治4年大政官布告（戸籍法33則）による明治5年2月1日施行のいわゆる壬申戸籍です。

これを明治19年内務省令によって改正し、明治19年式戸籍（同年12月1日施行）が整備されましたが、これまでは前記の戸口調査を主目的としたものです。

明治31年民法の制定施行に伴って戸籍も身分登録が主目的

に改められました。これが、明治31年式戸籍です。このときに戸籍簿のほかに身分登記簿（西欧の方式を採用）が併置されました。

次に大正3年の改正によって戸籍簿と身分登記簿が一本化されて大正4年式戸籍（同年1月1日施行）が生まれました。これが今日の直前の旧法戸籍です。

次に昭和23年民法改正に伴って戸籍法も改正され、同年1月1日から現行戸籍がつくられることになり、旧民法上の「家」を戸籍編製の単位とする旧法戸籍は、夫婦とその間の同氏の子を編製単位とする新法戸籍すなわち現在の戸籍に改められました。

ところで、近世における明治5年式戸籍（壬申戸籍）は「賤称、前科等一般に公開するに適しない記載事項があるので、閲覧申請に応じるべきでなく包装封印して保管すべきである」と昭和43年3月29日付法務省民事局長通達（民事甲等777号）にて禁止されました。

また、今年になってからは1月19日に、和歌山県白浜町で「戸籍閲覧謄抄本申請の交付申請にあっては、本人が請求する以外には本人の委任状、同意書、承諾書を提出または提示しなければならない」と条例で制限しました。

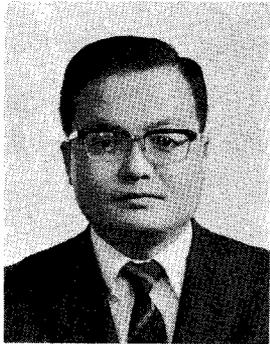
さらに、6月1日からは、大阪府下（30市11町2村）で、一斉に戸籍公開制限をするとして、「除籍と改正原戸籍の閲覧は全面禁止する」ことが実施されました。

戸籍は国民の身分関係を登録公証するもので、だれでも手数料を納めれば（現在70円）戸籍簿及び除籍簿を閲覧し、またはその謄抄本もしくは記載事項証明書等の交付を請求することができる（戸籍法10条）と決められています。現代の著しい情報社会の中で「個人のプライバシーを著しく侵害する」危険があるからとの趣旨で前記の方針になったのではないかと思われ、これから先も同様の趣旨で全国的に波及し、遂には法改正に進むことも考えられないことではありません。

したがって、私たち末日聖徒は、救いの御計画のために道くさをしていることなく、私たちの先祖と子孫のために準備することが急務であると思います。

バプテスマを受けて相当年月がたって、それほど系図が思うようにすすんでいない人も新しい人も、この機会に系図探究を開始しましょう。

（著者は、法務省に在籍、戸籍関係のお仕事をされています）

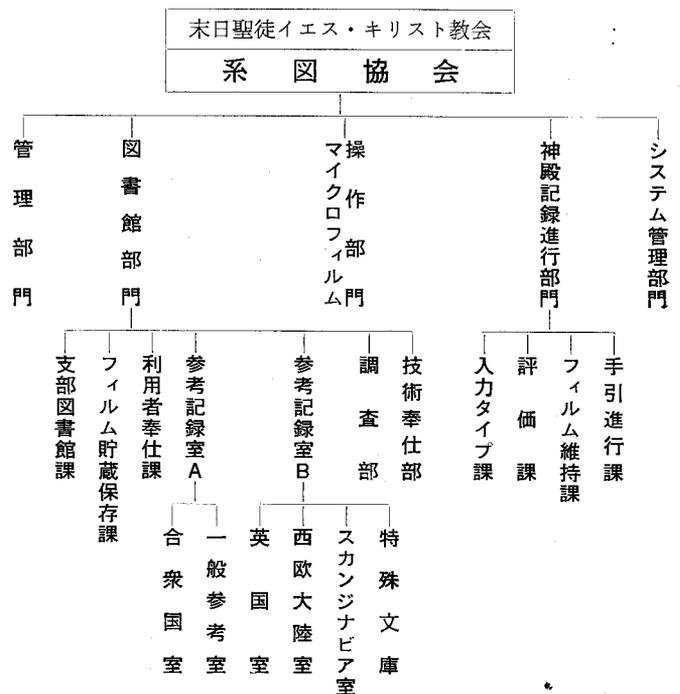


系図協会の活動

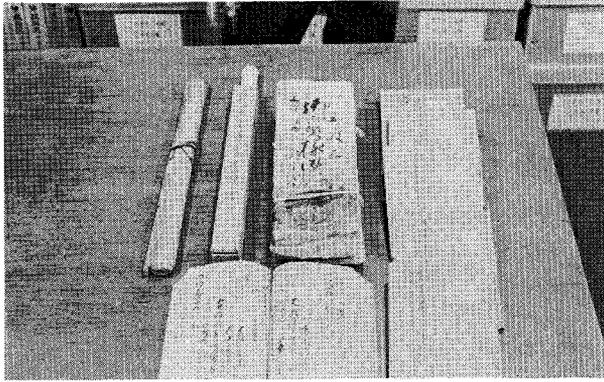
天 野 昭
系図協会日本代表

末日聖徒は予言者ジョセフ・スミスが言われた「神が私たちに与えたもうたこの世での最大の責任は、私たちの死者を探ることである。」との先祖探求の重大な使命を知っています。末日聖徒イエス・キリスト教会系図協会は、教会員の家族の系図を編さんする援助をすると共に、系図専門図書館を運営し一般の人々に公開しています。現在世界中に135箇所以上の支部図書館を設置し、教会員の系図探求に奉仕しています。系図協会は、最初1849年11月に「ユタ系図協会」として創設され、50年後の1944年に現在の「末日聖徒イエス・キリスト教会系図協会」と改称されました。ここでソートレーク市の教会本部の28階建の建物にある系図協会について御紹介いたします。系図協会の組織は別図の通りの5部門からなっています。系図協会の職員は、約550名でその9割の人々がここに勤務し、他の人々はソートレーク市の南西約20マイルの「グラナイト山記録保管所」で働いています。現在世界中の20ヶ国以上で130台以上のマイクロフィルムカメラが毎日稼動し、系図協会に撮影された各種の系図記録が送られて来ます。それらは、グラナイト山記録保管所と系図図書館に保存されます。日本からの系図資料は、現在山口県文書館で毛利家の文書等が系図協会カメラオペレーターの高橋茂兄弟によって撮影され、記録保管所検査部門の平西美都子姉妹によって厳密な検査を受けネガフィルムが保存されます。これらの貴重な系図資料は、やがて近い将来皆様が御利用いただけるように整理され、保管されています。マイクロフィルムカメラは、将来日本国内で同時に6台が撮影に稼動する予定です。教会員から提出される「家族の記録」は、神殿記録進行部門手引運行課のアジア地区担当者（日本人関係は、佐藤登美子姉妹、ローパン和子姉妹、マーシー・ネルソン姉妹の三名）に受理され、神殿での救いに必要な儀式を受けられるよ

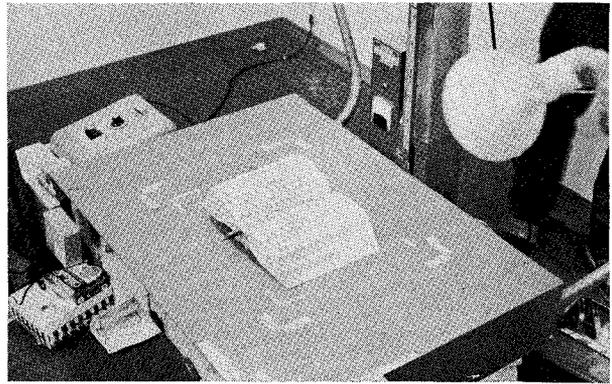
うに名前や必要な項目が検査され、記録としての正確さを評価され、神殿の儀式を受けるように進行されます。図書館部門では、各国別に資料が揃えられて居り、日本の図書資料は四階にあるアジア地区の一区画の書架にあります。調査部では昭和48年8月21日より古文書解読の定例研究会が、佐藤龍猪兄弟を講師として開催されています。出席者は、前記四名の職員の他に、技術奉仕部の司書鈴木健二兄弟も加わって古文書研究会が熱心に続けられています。日本国内では、奈良富士哉兄弟が目下国立国会図書館で系図資料のリスト調査活動を行っており、私は現在日本全国の系図資料（戸籍、家譜、武鑑、過去帳、神社、教会記録、その他系図関係書）等の調査収集活動を、全国の公立図書館、国公立大学図書館、古文書館、博物館、寺院、神社、宗派を問わず教会等を訪ねて実施しています。先祖の探求を続け、既に世を去った先祖がイエス・キリストの回復された完全な福音のもたらす完き救いと昇栄の喜びとを得られますことを、私の証詞として申し上げます。私たちは、マラキの予言を体現してエライジャが「父の心をその子供たちに向けさせ、子供たちの心をその父に向けさせる」先祖の救いの権能を回復されたことを知り、兄弟姉妹の皆様が御自分の先祖を探し、シオン山の救い手となられる業に、援助できますことを心から謙遜にイエス・キリストの御名を通し感謝申し上げます。アーメン。



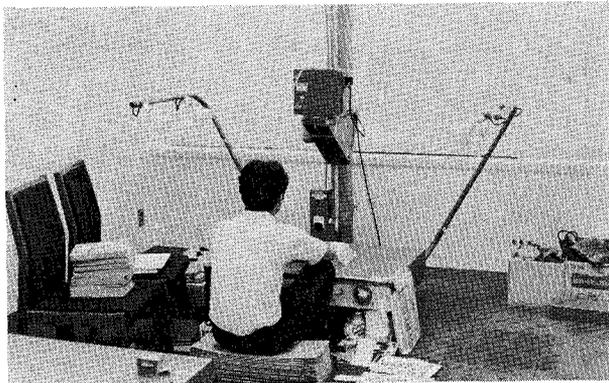
山口県文書館で毛利家の古文書をマイクロフィルムにおさめる高橋兄弟。



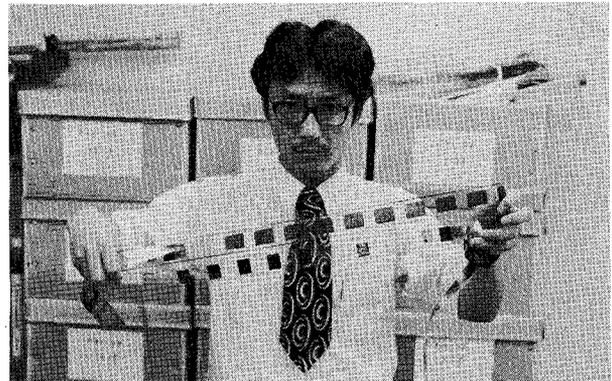
古文書



撮影のためセットされた古文書



撮影する高橋兄弟



古文書が収められたマイクロフィルム

——日本東伝道部だより——

高橋ちよの姉妹（74才）が4月30日亡くなられた。

戦後、日本に伝道が再開され仙台に初めて教会ができた昭和24年以來10年間宣教師のお世話を続け、食事、洗濯、掃除など肉親も及ばぬ奉仕ぶり、特に宣教師間では評判のおばさんであった。当時は伝道部も北部極東地区で唯一つ。仙台にやって来た宣教師たちは北海道から福岡、沖縄、はたまた韓国へと転勤していったが「タカハシノオバサン」の印象は深く大きいものがあったようである。帰国し、子供が生まれても写真や手紙が届けられ、外地で逢うと必ず彼女の安否を問われるというほどであった。



高橋姉妹

確かに彼女は外国人である長老たちにとって、ある意味での日本女性の典型であったに違いない。彼女の献身、誠実、従順、忍耐、勤勉、柔和などは、そのまま伝統的日本女性の美德でもあったからだ。福音開拓期の最初にこのようなすぐれた人格を宣教師の世話係として得たことは、私たちにとって大きな恵みであったといえよう。

夫を戦場に失った後、旧来の家の掟に従ってひたすら夫の名を守り、墓を守りつづ子を育ててきた彼女も、遂に7年目にして、周囲の反対を押し切りバプテスマを受けた。昭和44年には神殿に参入して永遠の結婚を結び固められるに至った。

私たちは、あらゆる疑問に対してこの教会が答えをもっていることを信じている。なぜなら、主が教会の頭であり、その計画を与えられたからである。私たちのメッセージは常に同じであり、私たちの望むことは人々が主の戒めに従って生きることである。それは聖典の中に、そしてまた過去数十年を通じて生ける予言者により明らかにされてきた。

